

令和5年12月15日

1. 出席議員

1 番	釘 尾	勢津子	9 番	松 田	義 太
2 番	宮 崎	幸 宏	10 番	勝 屋	弘 貞
3 番	笠 継	健 吾	11 番	角 田	一 美
4 番	中 村	日出代	12 番	伊 東	茂
5 番	池 田	廣 志	13 番	福 井	正
6 番	杉 原	元 博	14 番	松 尾	征 子
7 番	樋 口	作 二	15 番	中 村	和 典
8 番	中 村	一 堯	16 番	徳 村	博 紀

2. 欠席議員

な し

3. 本会議に出席した事務局職員

事 務 局 長	染 川	康 輔
事 務 局 長 補 佐	中 島	圭 太
議 事 管 理 係 長	富 岡	明 美

4. 地方自治法第121条により出席した者

市	長	松	尾	勝	利
副	市長	鳥	飼	広	敬
教	育	中	村	和	彦
総	務	川	原	逸	生
市	民部長兼福祉事務所長	岩	下	善	孝
産	業	山	崎	公	和
建	設	山	浦	康	則
総	務	白	仁	田	和
企	画	山	口	徹	哉
財	政	村	田	秀	哲
財	政調整監兼企画財政課参事	高	本	智	子
福	祉	山	口		洋
商	工	江	島	裕	臣
農	林	田	代		章
建	設	橋	本	昌	徳
建	設	山	口	秀	樹
下	水	橋	川	宜	明
下	水	江	頭	憲	和
教	育	嶋	江	克	彰
教	育次長兼教育総務課長				
生	涯学習課長兼中央公民館長				

令和5年12月15日（金）議事日程

開 議（午前10時）

日程第1 一般質問（通告順による）

鹿島市議会令和5年12月定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
8	12 伊 東 茂	<p>1. 市内循環バスをA I オンデマンドバスへの導入提案            (1) 地域公共交通の重要性            (2) 福岡県糟屋郡宇美町の取り組みについて            (3) 現状の福祉巡回バスへの課題と打開策</p> <p>2. 人口減少対策の主要施策として子育て支援の強化            (1) 本市の子育て支援について            (2) 兵庫県加西市「子育て支援、5つの無料化」について            (3) 本市の子育て世代から要望が強い給食費の無償化</p> <p>3. 東部中への通学道路の安全性確保について            (1) 市道27号古場切・浜漁港線の通学路の朝の危険性            (2) 道路沿いの側溝は蓋なし、歩道確保線の区分不明の現状            (3) 教育委員会によるスクールゾーンの安全性調査について</p>
9	9 松 田 義 太	<p>1. 令和6年度予算編成について            (1) 新年度の予算編成に向けて、最優先課題として挙げるとすれば何か。又今年度、特に優先した課題とは。            (2) 物価高騰による市庁舎をはじめ市内公共施設維持管理への影響及び対策について</p> <p>2. 人口減少対策について            (1) 本市の人口減少の実態と今後の見通しについて            (2) 移住・定住促進の成果と課題について            (各課及び関係機関との連携について)</p> <p>3. 有明海再生の取り組みについて            (1) ノリ養殖の現状と課題について            (2) 今後の支援策について</p>
10	5 池 田 廣 志	<p>1. 鹿島市を活性化するための取り組みについて            (1) 秋田県にかほ市との姉妹提携を進め、将来、鹿島市にTDKの誘致を実現するための取り組み状況について            (2) 市内企業の情報展示コーナー設置の進捗状況は。            (3) 市街地の幹線水路に水が流れずに、汚れた水が淀み、夏は蚊が発生しているので、その対策は。            (4) 公共施設の適正管理を。                ①生涯学習センター「エイブルの壁面の汚れ」                ②サクラスの「障害者用駐車場」の安全対策は。            (5) 観光スポットである「道の駅鹿島」を、さらに、活性化させるための新たな取り組みとして、考えられることは。</p>

順番	議員名	質問要旨
10	5 池田 廣志	(6)市の防災担当職員は、県等が開催する防災研修会に、積極的に参加し、災害から鹿島市を守る力強い取り組みを。 (7)これらの諸問題を解決し、多くの議員が提案する質問を整理し、解決するために副市長の取り組みとその役割りは。

## 午前10時 開議

### ○議長（徳村博紀君）

皆さんおはようございます。現在の出席議員は16名であります。定足数に達しておりますので、ただいまから本日の会議を開きます。

### 日程第1 一般質問

### ○議長（徳村博紀君）

本日の日程は、配付しております議事日程どおり一般質問を行います。

通告順により順次質問を許します。12番伊東茂議員。

ここで申し上げます。伊東茂議員の一般質問で議場モニター映像の使用を許可します。

### ○12番（伊東 茂君）

皆さんおはようございます。12番議員の伊東茂です。

12月になり、年の瀬となりました。そして、まちも慌ただしくなってきました。先日、浜公民館で年末恒例の親子しめ縄作り教室が開催され、多くの親子連れやお孫さんと一緒に来られた祖父母の皆さんと一緒に来年への願いを込めて作り上げ、参加者は楽しいひとときを過ごしました。

さて、10月、11月と鹿島市議会では常任委員会、特別委員会の行政視察が実施されました。先進事例地の視察は大変勉強になり、今回の質問は、視察研修に関連をする市内循環バスをA I オンデマンドバスへの導入提案、2つ目が人口減少対策の主要施策として子育て支援の強化と、浜地区から要望をされています東部中への通学道路の安全性確保について、この3点を質問します。

それでは、通告に基づき質問に入っていきたいと思います。

初めに、市内循環バスをA I オンデマンドバスへの導入提案です。

高齢化は年々加速し、令和2年9月末までの鹿島市での高齢化率は32.5%、令和10年には40%を超えると予想をされています。免許証の自主返納により移動手段が限られ、不自由な生活を送っている高齢者の方は多く、地域公共交通、特に、循環バスに対する御意見や御要望を多くの市民の皆さんから受けます。

本市の公共交通は、路線バスに加え、平成22年に市内循環バス、高津原のりあいタクシー

の実証実験がスタートをし、現在も運行を続け、廃止路線代替バスを配置する代わりに、予約型のりあいタクシーが北鹿島、能古見、古枝の一部を運行しています。しかし、鹿島市地域公共交通活性化協議会の資料を見ると、運行経費の10分の1にも満たない運賃収入で、厳しい状況が続いています。今後はさらに路線バスの廃止路線は増えると予想をされております。

地域公共交通は重要な役割を担っています。今年9月号の市報で特集を組まれた「みんなで守ろう地域公共交通」、(現物を示す) こういうふうな特集を組まれておりました。これを読み、さらに重要性を感じています。

初めに、今後の地域公共交通の在り方について担当課の考えを御答弁いただきたいと思っております。

次に、2つ目の人口減少対策の主要施策として子育て支援の強化についてです。

人口減少の加速は、全国の自治体を弱体化させていきます。少子化が進むにつれ、国も県も子育て支援に力を入れてきました。本市の子育て支援においても、出産・子育て応援金、子どもの医療費助成は高校生まで拡大をしました。子育て総合相談センターも充実をしてきました。放課後児童クラブの待機者はゼロとなり、お母さん方の就業にも負担は軽減をしたのではないのでしょうか。しかし、時代の変化とともに、子育てに係る費用は増えるばかりとのお話をお聞きします。

本市は自主財源に乏しく、大胆な子育て支援策は難しい状況です。今年、第七次鹿島市総合計画の中間年度の見直し作業が進められ、私は議会で市長に質問をしております。DXによる効果率を進め、経費削減分を市民サービスに充てたいとの私の質問に対し、市長がお答えをされています。昨年の市長選挙の公約に松尾市長は子育て世代への支援拡充を掲げ上げておられました。今後の子育て支援について、初めに、松尾市長の今後の取組についてお話しをいただきたいと思っております。

次に、3つ目が東部中への通学道路の安全性確保についてです。

浜の大橋、そこに信号がございます。その信号から浜の野島方面に入り、東部中へ向かう市道27号古場切～浜漁港線の通学路は幅員が4メートルほどの狭い市道です。東部中に向かって右側は40メートルほど側溝に蓋がなく、これまで幾度となく側溝に落ちてけがをされた方がいらっしゃいます。地元の女性、そして、地元の高齢者、自転車通学の中学生と続き、地元の野島区でも問題となり、(現物を示す) 区長さんから今年、市の担当課に側溝への有蓋化のこのような要望書が出ております。

加えて、道幅が狭い中、車歩道分離の白線も薄くなり、内側に車が進入しないように、数年前に塗られた青色のペンキも剥げ、歩行者の安全確保ができていない状況に早急な措置の要望が寄せられています。

建設住宅課、教育総務課の今後の対応について御答弁をください。

以上、総括質問とし、答弁をいただいた後、一問一答を続けてまいります。御答弁よろしく申し上げます。

**○議長（徳村博紀君）**

執行部の答弁を求めます。松尾市長。

**○市長（松尾勝利君）**

私のほうには人口減少対策の主要施策として子育て支援をどのように充実していくかという質問だったというふうに思います。

地方における最大の課題、これは人口減少問題だというふうに捉えております。鹿島市においても人口が年々減少しておりまして、今後も減少傾向は続くということが推測をされます。第七次鹿島市総合計画の施策の基本的な考え方、その中に、しごとづくり、ひとづくり、まちづくりの好循環が機能することで、みんなが住みやすく暮らしやすいまちの実現につながり、人口減少に歯止めがかかっていくというふうに考えています。1つは、しごと・ものづくりで若者の流出に歯止めをかける。2つ目が、ひとづくりで若い世代が安心して働き、子育てができる環境をつくる。3つ目が、まちづくりで鹿島の魅力を生かしたまちづくりを実現するという視点で、施策、事業に取り組むことといたしております。

この総合計画と一体的に策定しました鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、人口減少対策に特化した地方創生の施策、事業に取り組んでまいりました。具体的な施策を申し上げますと、私の選挙公約である高校生までの子どもの医療費助成を拡充してきましたし、児童手当など子育て家庭への経済的援助、それから、放課後児童クラブ提供体制の確保、教育・保育提供体制の確保、ファミリー・サポート・センターの利用促進など、総合計画の考え方を踏まえた各種支援事業の推進などが挙げられます。各分野にわたっての戦略を掲げて各種事業を実施しているところでございます。

先ほど私が就任したすぐに高校生までの医療費を無料化にするということ、昨年度の10月から償還払いで始めて、今年4月からは現物給付という形を取らせていただいております。予算的には15,000千円を上げておりますが、現在8か月が過ぎておりまして、約10,000千円近くの医療費助成をしているところでございまして、これを12か月分になしますと、やはり予算のとおり15,000千円ぐらいはかかるというふうに思っているところです。

それと、今後のことも考えまして、今、物価高騰が非常に進んで、皆さん方の生活が苦しいという状況になっております。先日、武雄市のほうで給食費の値上げというニュースがありました。従来、鹿島市と武雄市の給食費、小学校、中学校ほとんど同じ額だったんですが、そういうことを踏まえて、じゃ、鹿島市はどうするのかということだと思しますので、国からのいろんな支援を受けながら今年度は給食費を補助してきました。来年度はそういうことがどうか分かりませんが、鹿島市としては今のままの据置きで何とか来年もやっていきたいということで、その値上げ分について市のほうで手当てをするというふうに今考えておりま

して、国の支援があれば、それはまた別のところに振り分けるということも考えられるというふうに思います。

いろんな施策を打ちながらということですが、議員御承知のとおり、鹿島市の財政もなかなか厳しい中です。まず、身近でできるところから子育て支援の充実を図っていききたいというふうに思っております。よろしく申し上げます。

**○議長（徳村博紀君）**

山口企画財政課長。

**○企画財政課長（山口徹也君）**

それでは、私のほうからは市内循環バスをA I オンデマンドバスへの御質問にお答えしたいと思えます。

現在、鹿島市の公共交通網は市外と市内を路線バスや鉄道で結び、高津原のりあいタクシーや予約型のりあいタクシーで市内の各地域から市街地へつなぎ、市内循環バスで中心市街地の主要な施設を巡ることができるようになっております。中でも、人口は多かったですけれども、バス路線がなかったところに配置をしております高津原のりあいタクシーと路線バスの維持が難しくなった地域の足としての予約型のりあいタクシーについては、中心市街地を巡る市内循環バスと併せ、高齢者や免許返納者にとって重要な役割を担っていると考えております。

議員に御覧いただきました9月の市報でも10月からの変更内容として掲載をしておりましたように、その時々に応じて頻繁に見直しを行っているところです。

そこで、御質問の今後の公共交通の在り方ということですがけれども、今後、高齢化が進み、団塊の世代など、ボリュームの大きい年齢層が免許を返納することになれば、市内公共交通網はさらに重要になってくると考えます。また同時に、現在の60代や70代の方が免許返納を考える頃になれば、スマートフォンの取扱いに比較的抵抗の少ない方々が多くなると考えられるため、DXなどにより予約がスムーズになるのではと想像をするところです。そういう状況であれば、予約型のりあいタクシーはもちろん、現在、定時定路線で運行をしております市内循環バスと高津原のりあいタクシーについても、様々な見直しによりまして、より効率的な運行ができるようになるのではないかと考えております。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

江頭教育次長。

**○教育次長（江頭憲和君）**

東部中学校への通学路の安全性確保、今後の対応について御質問いただいたところです。私のほうからは通学路全体の安全性をどうしているかということでお答えをしたいと思えます。

教育総務課のほうでは、事務局をいたしております通学路安全推進連絡協議会という協議会がございます。これは学校のほうから出された点検状況を基に、対策に当たる担当部署の割り振り、それから、対策の方法、対策時期などについて協議を行っているところです。その協議会の中で現地調査等を行うなどいたしまして、現場の危険度、それから、必要性、優先度等の確認を行いながら、通学路の安全性の確保に努めているところでございます。

この協議会の構成といたしましては、県の土木事務所、それから、鹿島警察署、区長会、校長会、PTA、交通安全協会、交通安全指導員会などの関係機関の方々と構成をしております。今後もこれらの関係機関の方々と連携を図りながら、市内の子供たちの通学路の危険箇所、それから、要注意箇所についての安全対策を進めていきたいというふうに考えているところです。

**○議長（徳村博紀君）**

田代建設住宅課長。

**○建設住宅課長（田代 章君）**

建設住宅課のほうからは市道古場切～浜漁港線の改良ということの御質問にお答えをいたしたいと思います。

通学路となっております市道古場切～浜漁港線、ここにつきましては、地元の野島区のほうから側溝の有蓋化について要望を受けているところでございます。毎年、多くの要望を受けておりまして、全ての要望に対応できていないというような状況にあるわけですけれども、限られた予算の中で、危険度の高い場所、あるいは事故の頻度が高いところなど、優先順位をつけまして順次取り組んでいるところでございます。

ただいま御指摘を受けました箇所につきましては、私どもといたしましても危険度が高いところであるというふうに認識をしております。実施計画のほうに計上いたし、早急に対応していきたいというふうに思っております。

また、路側帯のカラー舗装につきましては、ここも通学路の安全確保のためということで、平成25年、交通安全施設等整備事業という事業で実施されたものでございます。施工から10年が経過しているということで、塗装がほぼ剥がれているような状況でありますので、現在、小学校通学路の安全対策を中心に行っておりますが、今後はこちらのほうにも順次取り組みたいというふうに考えております。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

12番伊東茂議員。

**○12番（伊東 茂君）**

答弁ありがとうございました。

それでは、質問順番に従って一問一答を始めたいと思います。



まず、市内循環バスをA I オンデマンドバスへというのですが、まずは担当課のほうに地域公共交通の在り方について今後どういうふうを考えているかということをお聞きしたいわけですが、山口担当課長のほうからおっしゃるとおりに、だんだんとスマートフォンとか、そういうふうなものを使うのに慣れてこられて、今は70代、80代の方もほとんどスマートフォン、スマホを使われていますね。私も60代ですけど、60代が75歳、後期高齢者になったら、おっしゃるとおりに、DX等を利用した予約のやり方、自分一人でそういう操作ができる、そういうふうに多分なるでしょう。鹿島のDXを進めていく中では、そういうふうにならないといけない。おっしゃるとおりに、効率的な見直しは必要ですね。それがもしできたら、今みたいに幾つも路線バス——路線バスはそのまま維持をしたとしても、循環バスとか、のりあいタクシーとか、そういうのは要らないんです。1つにまとめることができる。

それではまず、特別委員会で視察をしたA I オンデマンドバス、これは初日の一般質問で福井議員からも質問がありましたが、もう少し詳しく説明をしようかなと思います。

福岡県の糟屋郡宇美町、2019年にA I 活用型のオンデマンドバスの導入を決定されました。それまでは、どこの地区とも同じような福祉の巡回バスを運行されていました。そして、今年、2023年2月からこのオンデマンドバスの運行が開始をされています。こののりあいバスは従来の循環バスとは大きな違いがたくさんあります。これをできるだけ分かりやすく短時間のうちに紹介をしていきたいと思っています。

それではまず、画像を見ていただきます。

[映像モニターにより質問]

今、映し出されているのが、こういうふうな10人乗りぐらいのワンボックスカー、これでいきます。

どこが違うかといいますと、まず、鹿島市の循環バスは運行路線というのが決まっていますね。ただ、ここは運行路線は、乗降場所の地図があるんですね。市内に204か所あります。そこに印がしてあります。その区間内ならどこでも飛び越えて自由に行けます。一つ一つ回らなくていい。それはなぜかと。このルートを決めるのは、乗り場と目的地を予約すればA I が自動的に最適なルートをつくり上げます。そして、それを見て、運転手、タクシー会社の方は運転をします。そして、この乗車するには予約が必要です。ただ、この予約も非常に簡素化されていて、スマートフォンアプリ、電話で、これが1週間前から乗る直前まで予約ができます。だから、時刻表は要らないんです。時刻表はありません。

朝の8時半から夕方6時半の運行時間内、利用可能です。日曜日にも運行します。運行が中止されるのは、お盆と正月の合わせて5日、6日程度です。ですから、利用者が多い。そして、乗車場所は専用の乗降ポイント204か所、ここが今までの循環バスと違うところです。この204か所、地区の公民館をほとんど網羅しています。公園前、止まります。学校の前、止まります。病院の前も止まります。そして、それに加えて、ここの地区は西鉄バスです。

バスの停留所も止まります。利用ができます。ですから、204か所もあります。料金は大人200円、障害者、子供は100円、乳幼児は無料、そして、この支払いも今風です。ICカード、現金、そして、クレジットカード。

実際、私たち特別委員会で乗車をしてみて、本当に便利だと感じました。町内の204か所に乗降場所が設定されており、町内の公民館、学校近くにもバスは停車し、親子連れ、高校生も利用しており、利用者の年齢層は広いです。また、スマホでの予約が可能なのは便利だと感じました。

現在、福岡県糟屋郡宇美町、ほぼ全域、10平方キロメートルを運行しています。10キロ圏内ですね。そして、現在は地元のタクシー会社に委託をして、3台のワンボックスカーみたいな形のタクシーで運行し、1日100人から150人の利用となっています。もちろんここも運賃だけの収入では成り立ちません。やはり赤字は出るんです。しかし、それは同じように宇美町が補填をしています。

現在の鹿島市の循環バスの課題は、担当課の課長も分かっていると思うんですよ。便数が少なく、待ち時間が長いこと。肥前鹿島駅を出発したとして、西回り、東回り、24か所の停留所を通るわけですが、目的地まで直接ダイレクトに行けるわけではありません。24か所回るのに38分を要します。便数は1日3便、西・東回り、3時間置きに稼働を今しております。利用者が増えないのは、限られたエリアのみ運行で市内を網羅する循環バスではなく、便数が少なく待ち時間が長い、巡回方式なので乗車時間が長いなどの課題があまりにも多いんです。これからの循環バスは、このような課題を解決しない限り、利用者を増やすことは望めないと私は思っております。

鹿島市では地元のバス会社との関係もあり、循環バスの運行を続けていますが、市民の満足度を高めるためには大胆な見直しと発想が必要だと思います。福井議員の質問に、AIでの配車システムは有効と考え、検討したいと担当課長は答弁をされています。福岡県の宇美町のオンデマンドバスは三菱商事と地元の西鉄バス、ここが共同の出資でつくられた会社、そこに依頼をして、このオンデマンドバス、のるーとというのをやっているわけですが、私は地元の祐徳バス、地元のタクシー会社、そして、鹿島市が共同で研究をしていただき、山間部など廃止路線も運行ができ、乗降場所を地区公民館、学校、病院前など、大幅に増やすことが可能な県内初のAI活用型オンデマンドバスの開発に向けての取組を要望したいと思います。先のことを考えたら、地元のバス会社さんもお話には乗っていただけると私は思います。タクシー会社の皆さんもそうだと思います。

これは松尾市長に私の考えについての答弁をいただきたいと思います。お願いします。

○議長（徳村博紀君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

今回、AI活用型のオンデマンドバスの導入をどう考えるのかということだと思います。

さっき議員が言われたように、いろいろな利点があって、やはり導入というのはどうかということだと思います。それぞれの地域の特性がありますので、やっぱりその地域特性も1つ考えなければならないというふうに思っております、この場所が、宇美町というのはある程度コンパクトな町ということで、運行に適しているというのは1つあるというふうに思います。

これを鹿島市にどうするかということですので、考え方としては、やはり前向きに考えていきたいというふうに思いますし、鹿島市にも、バスやタクシーの運行会社、あるいは区長さんたち、いろんな学校関係の皆さん方とかが集まって、これからの公共交通をどうしようかという鹿島市地域公共交通会議がございます。そういう中で、やはりこういうふうな新しい形態があることも皆さん方に御紹介をして、じゃ、今までのやり方でどうなのか、さっきおっしゃったような鹿島市の課題が解決できるのか、そこら辺を総合的に話し合いながら検討をしていきたいというふうに思います。

市の職員も実は宇美町のほうに視察に行っております。内容は職員のほうもある程度分かっておりますので、そのようなことも含めて、今後、市のいろんな関係機関の皆さん方と協議をしていかなければいけないというふうに思っております。

**○議長（徳村博紀君）**

12番伊東茂議員。

**○12番（伊東 茂君）**

松尾市長ありがとうございます。

今おっしゃったように、私も理解できます。この鹿島は鹿島ならではの地域の特性、それに合わせていかないといけないだろうと、私もそれは思います。ただ、お話の中で出てきたように、地域公共交通会議、こちらにしっかりとこれをのせていただきたい。まず、テーブルにのせないことには先に進みませんから、それをお願いしたいなと思います。

今回、私が特別委員会の委員長を務めさせてもらって、幾つかの視察地の中でここを選びました。うちの特別委員会副委員長の宮崎議員、非常によく勉強をしてきて、私に鹿島の地域公共交通の課題全てを解消するのはこれしかないんじゃないですかということで、視察地に選びました。そこに行って、福井議員も質問されたように、全員がこの便利さというか、これからの時代の地域公共交通体系じゃないのかなという気がしましたので、ぜひとも前向きにこれに取り組んでいただければと思います。よろしくお願いします。

それでは続きまして、人口減少対策の主要施策として子育て支援の強化のほうに移らせていただきます。

最初の総括質問で、松尾市長が子育て支援について今後どういうふうに考えているかというふうなことを質問しました。そういう中で、松尾市長は第七次総合計画に基づいて進めて

いくと。もちろん第七次総合計画は鹿島市の最上位の計画です。人口減少の対策に特化した施策ということで、もちろん最初に挙げられた、あなたが市長になってから実現をしました高校生までの医療費の無償化、これはすばらしいことだと思っております。年間15,000千円ぐらいかかると。そういうふうになるでしょう。それと、やっぱりおっしゃったように、物価高騰のこの時期、私も武雄市さんが給食費を値上げするという新聞記事を見たときに、ほかの近隣の自治体がこれに追随というか、同じようなことをしなければいいのになと思っております。しかし、市長の口から、ずっとじゃないでしょうけど、今のところは給食費の値上げは考えていないということで、安心をしたところです。

この人口減少対策の子育て支援、子育て応援、これも常任委員会で視察に行った兵庫県の加西市、ここは人口4万2,000人のまちです。三洋電機発祥の地で、全国的に有名な電化製品が製造されています。一番人気があるのはトースター、これはいろんなマスコミで取り上げられています。

加西市は少子化が進む中、年間出生数が令和に入って200人を下回り、令和3年には174人と減少し、危機感を感じ、令和4年より子育て支援のさらなる強化を進め、市独自の子育て応援施策等プロモーションを開始されました。5つの無料化を掲げられ、その内容を少し御紹介します。

5つの無料化ですから、5つあります。1つ目が、保育所、認定こども園のゼロ歳児から5歳児の保育料無料化。3歳以上は国のほうで無償化になっていますから、こちらではゼロ歳児から2歳児までも無償化をされています。そして、全ての保育園児、小学生、中学生の給食費を完全に無料化です。お金は要りません。そして3つ目が、乳幼児から高校3年生までの医療費の無料化、これは鹿島市とそんなに変わりはないと思います。次が、生後3か月から満1歳の誕生日まで毎月、おむつが無料で配達されます。そして5つ目が、病気療養中、病気回復期の生後6か月から小学校6年生まで病児・病後児保育の無料化です。

もちろん、これだけやるには相当なお金がかかります。この加西市でも合計で557,570千円かかっているんですね。市の負担は5億円を超えています。国、県の補助金は52,950千円です。私は鹿島市にこれと同じことをやってくれなんて言いません。ただ、1つの例として挙げました。

最初に、このまちのことを言ったように、三洋電機の発祥の地で、電化製品、その中でもトースターが非常に有名だと言いました。ここのふるさと納税の寄附額は全国で13位です。兵庫県で1位です。寄附額は6,361,000千円です。鹿島市とはちょっと比べものにならないぐらい、10倍以上集められています。ですから、この財源、この504,620千円はふるさと納税の市長にお任せ分から全て出ているんですね。ただ、これをやったからといって、子供の出生数が増えるかという、そうでもないんですね。だから、そこに加西市も頭を悩ませていらっしゃるんです。様々なテレビでのコマーシャルまでここはやっているんです。そこま

でやっても、なかなか増えない。

ただ、鹿島市の市民課から頂いた出生数データ、今回のこの一般質問で取り寄せました。びっくりしました。多分、皆さんもそれを見たら、びっくりすると思います。鹿島市も令和元年から出生数が200人を下回っています。令和4年、去年の出生数は151人です。多分、新型コロナウイルス感染症の影響があったかも分かりません。それまでは年間250人程度から二百二、三十人で推移していたんです。令和に入って一気に出生数が落ち込んできております。本市も危機感を高め、対策を打ち出さなければ、取り返しがつかない状況に陥ると感じます。

難しい問題ですが、担当課は今から始まる新年度予算の編成に向け、新たな子育て支援策を何か考えていらっしゃいますか。難しい質問かも知れませんが、答弁をお願いします。

**○議長（徳村博紀君）**

高本福祉課長。

**○福祉課長（高本智子君）**

お答えします。

先ほど10年間の出生数を言われましたけれども、私のほうも少し調べてみました。佐賀県の人口動態統計というのがありまして、それに載っていたものから拾ったんですけど、出生順位別から見た鹿島市の出生数ということで、これは令和3年の分しかなかったんですが、それでいいますと、10年前、平成25年と比較しまして、第1子が63%に落ち込んでいるということで、第2子のほうは61%、第3子になると54%までと、女性が子供を産むという比率が半分程度に下がっており、何人産むかということについても減少しているということが分かりました。

少子化の要因としましては、子育てにお金がかかるということも1つあるでしょう。また、国、県、市それぞれの施策によって、鹿島市に住んでもらって安心して子育てができる環境をつくることができると考えております。

次年度予算編成に向けて新たな子育て支援策を考えているかという御質問でありますけれども、現状としまして鹿島市で独自に実施しております高校生までの子どもの医療費助成は、子育て支援の重要な施策の一つとして今後も維持をしていくことが必要だと思っております。福祉課といたしましては、これまでも児童手当支給や保育所の整備、それから、障害児の発達支援、そして、ひとり親の自立支援ということで、様々な各種子育て支援事業に取り組んでまいりました。現在、次年度予算の編成作業中でありまして、申し訳ございませんけれども、具体的なお話をする段階にはございません。

しかしながら、令和5年6月にこども未来戦略方針が閣議決定されまして、異次元の少子化対策ということで、中でも今後3年間の集中的な取組期間において加速化プランというのが国のほうで方針として示されました。つい先日ですけれども、こども未来戦略素案の詳細

の発表がございました。この中には児童手当などの拡充とか多子世帯への支援の拡充策が盛り込まれておりまして、また、子育てに困難を抱える家庭へのアウトリーチ支援、訪問支援なんですけれども、こちらのほうも盛り込まれておるところです。そういった視点をこれからはやはり取り入れていかなければならないと感じております。

限られた財源の中ではありますが、御紹介いただきました加西市の事例、また、県内他市町の事例等を参考にしまして、素案を考え、できるところから取り入れていければと考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

12番伊東茂議員。

○12番（伊東 茂君）

ありがとうございます。

担当課の課長が今おっしゃったように、難しいというのは私もやっぱり分かります。それこそ先ほどの話ではないですが、ふるさと納税で相当な寄附金を鹿島市が集めることができ、それを市民サービスに還元するということが十分できたら、そこまでやることはないでしょうけど、でも、やっぱり今おっしゃったように、まずは松尾市長になって最初に取り組んだ高校生までの医療費の無償化、これを継続していくということ。それと、国頼りではないんですが、国も異次元の少子化対策という言葉を使いながら、なかなかそれが実効性がよく分からない。そして、今、国会も混乱しています。そういう中、ただ、鹿島市は黙って指をくわえて待っていたら、この出生数はますます減っていきますよ。これは今度は小・中学校の教育の問題、ここにも波及をしてくると思うんですね。だから、やっぱりこれは考えないといけない。

去年12月の一般質問で、松尾征子議員が小・中学校の給食費の無料化ということで質問をされています。そのときの執行部の答弁、完全無償化をすれば120,000千円の財源が必要であり、予算化するには財源の問題もあり、今後、学年を絞り実施するか検討をしてみたいと答弁をされています。今、市内の子育て世代の皆さんから一番要望が強いのが小・中学生の給食費の無償化です。国のこども家庭庁に期待を寄せておりますが、子育て支援の地域間格差が今マスコミで大きく取り上げられ、やはり問題になっています。私は本市の自主財源の厳しさも考慮した上で、お隣の白石町が実施している小学6年生と中学3年生に学年を絞り、給食費の無償実施をまずやっていただきたいと思っております。1年分の給食費を中学、高校への進学準備に充てていただきたい。小学6年生と中学3年生の分ですね。小中完全無償化の費用120,000千円の、小学校6年間と中学校3年間の9年間ですから、9分の2ですね、2つの学年ですから。それで計算すると、2学年で年間26,000千円から27,000千円ぐらいの予算が必要となります。私はこの金額なら可能ではないかなと思っているんですね。

今、鹿島市が当初予算で様々な各担当課から上がってきた施策、事業をされている中で、絞り込めるのが結構あるんじゃないかなと思うんですね。一時期よく使われたスクラップ・アンド・ビルド、これをもう一度やっていただき、来年度春から実施をしていただきたいと思います。これを年間11か月徴収しております。ですから、中学に上がる時、高校に上がる時、50千円近く、60千円近くそれに充てることができるのではないかなと私は思っております。

これは担当課に質問しても厳しい質問になってしまいますので、松尾市長、答弁をお願いします。

○議長（徳村博紀君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

子供の給食費の無償化ということで、小学校6年生、中学校3年生と学年を絞って来年度からやってはどうかという御提案です。

先ほど私が一番初めに申し上げましたように、私も以前、多子世帯、子供さんがいっぱいいらっしゃる家庭も大変でしょうから、そういうところに給食費の無償化を仕向けたとかいう話をしましたが、今回、私が冒頭申し上げました物価高騰対策で、やっぱり子育て世帯は皆さんが今困っていらっしゃいます。そういうことを勘案すれば、時限的ではありますけど、全世帯がやはり給食費の値上げを少しでも抑えたいという思いがあられると思いますので、その部分については、来年度の予算の中で値上げというのは考えず、値上げ分を市の予算の中で補填をしていくという取組をまずやりたいなというふうに思っております。議員がおっしゃるような取組も効果があると思いますけど、次年度は鹿島市としてはそういう取組をやっていきたいと思っております。

○議長（徳村博紀君）

12番伊東茂議員。

○12番（伊東 茂君）

ありがとうございます。

市長がおっしゃるように、気持ちは分かるんですよ。ただ、私たち議員は、春の選挙のときもそうでしたし、やっぱりそういうふうな要望、議会でそれを伝えてくれという要望がいっぱい来るんですよ。それはやっぱり伝えないといけない。市民の皆さんが今どういうふうにいるか、それを執行部の皆さんに分かっていただかなければならない、そういうふうな思いで私は質問をしております。

まずは物価高騰対策で、来年度、給食費の値上げをしないということ。できる範囲からですね。その後、国ももっとこういうふうな子育て応援の支援策を充実してくるんじゃないかなとは思っておりますが、その辺りも見ながら、また機会を得て質問をさせていただきます。

す。

それでは、3つ目の最後の質問になります。東部中への通学道路の安全性の確保です。

教育総務課から答弁があったように、通学道路の安全性ということ、これは今回の一般質問で資料を頂きました。各小学校別を書いてあります。ああ、こんなにいっぱい各地区からの要望であったり危険箇所はあるんだなと思いました。小学校が7校、そして、中学校が2校、その中にこの東部中の市道の危険箇所というのはやっぱり同じように書いてありました。

ちょっと写真を見ていただきましょうか。

〔映像モニターにより質問〕

これが先のほうに行くに従って、東部中に近づいていくわけですね。こういうふうに右側に側溝があって、こういうふうに少し水が流れております。

このようにずっと——途中、家の前は少し蓋とといいますか、通れるように有蓋化をされているところ、それは個人のお宅がされているところですね。

こういうふうにしてもらっちゃいます。これは反対側から見たところ。

しかし、こういうふうに途中途中で開いているんですね。特に、ここの場所の手前に板みたいなのが張ってありますが、ここに高齢者の方が落ちて非常に重傷になって、そして、治療をされておりましたが、亡くなったというふうな事例がございます。

鹿島市の教育委員会が編集、発行しています「鹿島市の教育」、(現物を示す)毎年こういうふうなのを私たち議員は頂いております。この中で、令和5年度鹿島市学校教育方針には、基本方針、重点目標、施策が書いてあります。その健康・安全に関する指導を通して健やかな体を育むという項目の中で、「登下校を含めた安全教育の推進と安全管理の徹底」という言葉が記載をされています。東部中が位置をします野島区は浜川を渡る橋が何か所かあり、周辺の道路はどこも狭く、車が通れば歩行者が路肩に寄らなければなりません。この一般質問を決めた後、平日の朝ですが、この市道に立ち、登校の様子を見守りました。徒歩で登校する浜地区の生徒、自転車通学の七浦の生徒、7時20分頃には道いっぱいに広がり、登校をしています。7時30分を過ぎると、今度は車での送迎、特に、ワンボックスカー、6人乗り、7人乗り、そういうふうな大型の車が子供を乗せて学校に送るために続きます。そうになると、自転車通学の子供、歩いている子供たちは右側に寄らなければなりません。生徒の安全確保はできていません。

そして、保護者の方の送迎に関しても、七浦から来られる場合、バイパス、あそこは何回も信号機の設置のお願いを地元も浜もしておりますが、それもなっていないため、七浦から来る場合、あのバイパスを右折して東部中の体育館のほうに入っていくのは朝の7時、8時の時間帯は非常に難しい。そういうこともあって、全てが浜大橋のほうから入ってくる。そういうふうなこともあるわけですね。

数日前、一般質問用に要求した資料が教育総務課から届き、市内小・中学校におけるス



クールゾーンの安全性についての調査記録を読ませていただきました。先ほども言ったように、この道路は危険箇所挙げられています。ここの道路の拡張等は、私が議員になった20年前から浜の議員であったり、いろんな方が何年か越しに質問をしているんですね。しかし、道路の拡張が難しいことは私も分かります。今の時代、これは難しいだろうと思っています。しかし、車を運転される方への減速の路面標示とか、右側にはっきりと見える白線、もしくはカラー舗装、グリーンベルトというんですが、こういうふうなのも必要じゃないでしょうか。青色のペンキが10年前に塗ったということで剥がれている。ここの辺りの対策をしないと、同じような事故がまた起きると思います。

このことは東部中学校の校長先生にもお話をし、PTAにも話をさせていただいております。今後、PTAからの要望書等が出てくる可能性もあります。これについて、教育長並びに対応部署の建設住宅課、答弁をお願いします。

**○議長（徳村博紀君）**

中村教育長。

**○教育長（中村和彦君）**

お答えいたします。

まず、登下校時の通学路の安全対策につきましては、交通指導員の皆様や地域のボランティアの皆様が大変協力をしていただいて、感謝をいたしております。おかげさまで、登下校時の大きな交通事故はここ数年起こっていないところです。

通学路の安全対策につきましては、先ほどお答えしましたように、鹿島市通学路安全推進連絡協議会を設置し、学校から出されました要望を基に、毎年、年3回会議を開いて、そのうち1回は現地に出向いています。そして、対応をしているところです。昨年度も25か所の対応をいたしたところです。平成27年から始まっておりますので、昨年度までの8年間で141か所の対応をいたしております。このことについては、鹿島市のホームページを御覧になっていただくと、まず、一覧表もつけておりますけれども、年度ごとに学校ごとに写真もつけて掲載をしておりますので、ぜひ御覧をいただけたらと思います。

該当の野島地区の市道につきましては、この委員会の中でもカラー舗装が剥げてしまっているから再生要望が上がっておりますけれども、その会議の中では令和5年度以降の対応ということで、まだ現在対応はできていないところです。

さて、当該の通学路ですけれども、私も東部中学校を訪問した際は、行きはバイパスを使って行きますけれども、先ほど議員がおっしゃったように、帰りはバイパスの右折が非常に難しい。そこで、この野島の通学路を利用させていただいているところです。両側に民家がございますので、細心の注意を払って運転をしているところです。今回も質問を受けましたので、ちょうど1週間前の金曜日に朝7時20分から8時まで、泰智寺から参楽橋に通じる、先ほど出ましたけれども、交差点に40分間立ってみました。車を数えたら、泰智寺方面から

横切る車も十数台ございましたので、合わせて48台、生徒が大体60名から70名程度通学をしてまいりました。その日は雨が降っていなかったのですが、近所の方ともちょうどお話ができましたけれども、雨が降るともっと多いですよというようなお話を伺ったところです。

こういったように、東部中学校だけでなく、北鹿島小や浜小、鹿島小も学校のそばの道路が非常に狭いというのはいろんなところで見られているところがございます。それで、私たちは交通事故を防ぐために3つ大切なことがあると思っております。1つは、今話題に上っていますように、通学路の安全整備をどうやっていくかと、ここが1番。2番目は、やはり児童・生徒の安全指導ですね。これについては、毎年、交通教室等も開いておりますので、その中で児童・生徒自らが交通事故に遭わないような能力を身につけていく。先ほど広がって登校しているというような御指摘もございましたので、その辺りのことも含めて、この辺りをまた今後指導していきたいと思っております。3つ目は、やはり運転者のモラルですね。当日も朝でした。道も狭いですので、低速で走行をしていただいていたので、私が立っていたからかも分かりませんが、皆さん低速で気をつけて運転をしていらっしゃいました。ですから、幾ら道が広くなっても、運転者のモラルというものが上がっていかないと意味がないわけですので、今言ったような3つを私たち教育委員会としてもまた進めていきたいと思っております。

該当箇所につきましては、先ほど担当課の建設住宅課からありましたように、今後の実現に向けて私たちも連携を取っていきますので、またよろしく願いいたします。

**○議長（徳村博紀君）**

山浦建設環境部長。

**○建設環境部長（山浦康則君）**

私のほうから市道の件についてお答えしたいと思います。

先ほどもありましたように、小学校や中学校の通学路につきましては、スクールゾーンの安全調査、いわゆる通学路安全プログラムにて要望が上がった箇所については、カラー舗装や局部改良など、補助事業を活用して対応してきたところがございます。

八街市の小学生の列にトラックが突っ込むという事故があって、まずは市内の小学校の通学路を中心にこれまで対応を講じてきたところがございます。小学校のほうの要望箇所も整備については落ち着いてまいりましたので、今後は中学校の要望箇所についても対応を講じてまいりたいと考えております。

また、地元の野島地区からの要望の側溝の有蓋化につきましては、けがもなさっているということもありますので、優先度は高いものだと認識しております。先ほどの答弁と重複しますが、今後も実施計画に計上しながら対応していきたいと考えているところがございます。

**○議長（徳村博紀君）**

12番伊東茂議員。

○12番（伊東 茂君）

答弁ありがとうございました。

やっぱり教育長がおっしゃったように、もちろん道を広くなしたからといって事故が減る、全部ゼロになるというわけではないでしょう。おっしゃるとおりに、運転をされる方のモラルというか、低速運転、学校近くの道路はとか、そういうふうな看板というか、先ほど私も言ったと思いますけど、道路に学校付近であるというのが分かるようなのを書いていただくとかも考えていただきたいなと思っております。

それと、やはりおっしゃったように、生徒の皆さんも登下校の際は交通ルールを守って、横いっぱいになって歩いたりせず、どうしても同級生同士とかお話をすると、私が朝見していたときも、自転車通学の子供たちが運転しながら横の子供とお話をしているから、やっぱり横に並んでいくんですね。だから、そういうふうなものも危険性もありますから、また指導をお願いしたいと思っております。

建設住宅課のほうは優先順位は高いと私も思っておりますので、できるだけ来年度ぐらいにはこれを実施していただければなと思っております。ありがとうございました。

今回、A I オンデマンドバスの導入提案であったり、子育て支援の強化、その中で給食費の無償化とかをお願いしました。また、先ほどから言っております東部中への通学道路の安全性の確保、この3つを質問させていただきました。冒頭申し上げた行政視察で各自治体の担当者と意見交換を行う中で、今回、特に強く感じたのが、どこの自治体もふるさと納税に力を入れ、その寄附金を福祉サービス、子育て応援の財源に充てている自治体が目立ちました。以前は、いろんな施設を造るときには合併特例債を使っているところが物すごく多いなと思いつつ、羨ましい限りだったんですが、今回は自治体の努力でふるさと納税の寄附を集めていらっしゃる。それを不足する財源に充てていらっしゃる。そして、市民サービスの向上に努めている。そう考えると、やっぱり鹿島市も頑張っていたいただかなければなりません。ふるさと納税の魅力ある新たな返礼品の開発に期待をしております。

今日の新聞にも載っておりました。鹿島高校生がナルトビエイの試食。十数年前も1回それをやったんですね。私も試食をしました。今回は鹿島高校生がそういうふうなのを考えています。それこそ鹿島高校生が作ったカレーであったりとか、そういうふうなものもあると思いますので、新しい返礼品の開発、若い高校生とかの発想も入れながら考えていただきたいと思っております。

新しい年になりますが、来年が鹿島市民にとってすばらしい一年になることを祈念申し上げます、一般質問を終わらせていただきます。答弁ありがとうございました。

○議長（徳村博紀君）

以上で12番議員の質問を終わります。

ここで10分程度休憩をします。11時20分から再開します。

午前11時10分 休憩

午前11時20分 再開

○議長（徳村博紀君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

次に、9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

皆さんこんにちは。9番議員の松田義太でございます。通告に従いまして一般質問をいたします。

今回私は、鹿島市が直面する課題として、1点目に令和6年度予算編成に向けて、2点目に人口減少対策について、3点目に有明海再生の取組についてという3つの表題を掲げ質問いたします。

今年1年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、市内主要イベント、地域行事も開催され、観光地においてもインバウンドをはじめ、多くの観光客が訪れるようになりました。また、9月10日には鹿島市民文化ホールSAKURASが開館し、文化芸術発信の場として様々なイベント、事業が開催をされております。

一方、市民生活に目を向けますと、物価や燃料の高騰、そして、物流・運輸業界の2024年問題など、今後、市民生活を取り巻く環境は一層厳しくなると予想されます。

令和5年度予算が執行されている中でありますが、今後しっかりと事業の成果検証を行い、新年度予算編成に生かしていただければと思います。

そこで、令和5年度予算において特に優先的な重要施策として取り組まれた事業について御説明ください。

2点目に、人口減少対策についてお伺いをいたします。

まず、市の人口は令和4年度2万8,000人を割り込み、2万7,692人となりました。特に自然動態の出生数が163人と過去最少になり、少子化が加速しております。社会動態については、転出が900人前後、転入が750人前後で、ここ数年推移をしています。

そこで、本市の人口減少の実態と今後の見通しについてお伺いをいたします。

3点目に、有明海南西部のノリ養殖業については、赤潮被害と栄養塩不足による色落ち等により収穫量の落ち込みが激しく、例年の半分以下という、かつて経験したことの無い不作となっております。そのことによって経営の危機に直面をされている漁業者の方はたくさんおられます。

まず最初に、先日、12月8日の入札がありましたが、その状況について、生産量、生産額、各地区ごとに御説明をお願いいたします。

以上で1回目の総括的な質問を終わります。

なお、詳細及びその他の項目については一問一答の中でお伺いしますので、よろしくお願

いたします。

○議長（徳村博紀君）

執行部の答弁を求めます。村田財政調整監。

○財政調整監（村田秀哲君）

私のほうからは令和5年度予算において特に優先的な重点施策として取り組んだ事業についてお答えいたします。

第七次総合計画の中間年である今年度は、DX、デジタルトランスフォーメーションの普及やゼロカーボンシティ宣言、デジタル田園都市国家構想など、著しい社会情勢の変化に対応するため、緊急的かつ優先的に取り組まなければならない行政課題を計画に盛り込む必要性が生じてきたため、第七次総合計画の見直しを行い、施策の基本的な考え方に持続可能なまちづくりが加えられました。

その中で、豊かな環境資源を活用し、自然との調和、循環型社会の構築の上に立つ鹿島らしい脱炭素社会の実現と、DXの普及推進に取り組むことで地域課題解決や魅力向上の取組を加速化させ、誰一人取り残さない地域社会の構築を目指すことといたしております。

特徴的な事業といたしましては、1つ目にDX推進事業を行っております。この中には、RPA導入事業、ビジネスチャット導入事業、活性化企業人活用事業などが含まれております。2つ目に、鹿島市カーボンニュートラルに向けた戦略策定支援事業などがあります。そのほかには、広域連携SDGsモデル事業など、これらを推進していくことで来年度以降に引き続き取り組んでいくことといたしております。

○議長（徳村博紀君）

川原総務部長。

○総務部長（川原逸生君）

私のほうからは2点目の本市人口減少の実態と今後の見通しについて申し上げます。

人口といいまして、自然動態と社会動態がございます。死亡者数が出生者数を上回る自然減が続いております。議員御紹介のとおり、特に出生者数が過去最少となっております。また、転出者数が転入者数を上回る社会減、こちらのほうも続いており、減少傾向が進んでおります。

国勢調査を5年ごとに実施いたしておりますが、この人口で申し上げますと、平成12年は3万3,215人、5年後（239ページで訂正）の平成27年には3万人を割り込み2万9,684人、令和2年は2万7,892人、そして、令和5年、本年11月推計人口では2万6,826人となっております。減少傾向が進んでいる状況下でございます。

この減少傾向は、国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研、これは人口問題等に関する調査研究を行い、将来の人の規模、年齢構成の推移等について推計している機関でございますが、この推計によりますと、今後さらに進んでいくことが想定をされるところでござ

ざいます。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

江島農林水産課長。

**○農林水産課長（江島裕臣君）**

私のほうからは有明海再生の取組、ノリ養殖の現状について申し上げます。

鹿島市の養殖ノリにつきましては、令和2年度から令和4年度漁期の3期連続で不作となりまして、特に令和3年度と4年度は過去30年間で見て最低となる販売金額でありまして、ノリ生産者の皆様は非常に厳しい状況下にあると推測をされます。

今期の養殖ノリの状況につきまして、海の状況、海況も含め申し上げますが、今期は10月27日に採苗が開始され、11月下旬には冷凍ノリ網の保管、11月末頃から秋芽ノリの一番摘みが開始されまして、12月に入り鹿島市全域で本格的に生産が始まったところでございます。

この作業前の11月上旬にはプランクトンの増殖による赤潮が確認をされまして、その後、短期間で発生と終息を繰り返しまして、11月中旬ぐらいからは赤潮の範囲が佐賀県の中部からこちら西南部地域へ移動してきているというような状況もありまして、こうした影響もあり、栄養塩が非常に厳しい中での生産となっている状況でございます。

こうした中、先週12月8日ですけれども、県産ノリの第1回目の入札会が行われまして、鹿島支所の入札結果は、枚数が約920万枚、金額で約220,000千円となりました。昨年の1回目の入札と比較しますと、枚数では約半分ではありますが、金額は9割程度という結果となりました。枚数は少ない状況ではございましたが、平均単価が昨年よりも1枚当たり10円以上高いという結果となりまして、これは昨年の不作による品薄状態と今年度のノリのほうが品質や味がよいという評価から単価が高くなっているということでございます。

今回の入札結果につきまして、地区別に見てみますと、鹿島・北鹿島地区が、枚数が約230万枚、金額が57,000千円、1枚当たりの平均単価が約24円でございます。浜地区が、枚数が約360万枚、金額のほうが約106,000千円、平均単価が約29円となっております。七浦地区が、枚数が約330万枚、金額が約61,000千円、平均単価が約18円となっており、ノリ網1枚当たりの生産枚数で見ても、鹿島・北鹿島地区が約330枚、浜地区が約350枚、七浦地区が約200枚という結果でございました。やはり栄養塩の供給元となります河川から離れております七浦地区は、鹿島市の中でもこの影響を大きく受けた結果となっております。

依然として栄養塩が極端に不足している中での生産でありまして、今後まとまった雨などで海況が回復することを願っているところでございます。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

9番松田義太議員。

**○9番（松田義太君）**

それでは、一問一答で質問をさせていただきたいと思います。

まず最初に、新年度予算に向けてということで、令和5年度の予算について特徴的な事業について説明をいただきました。

D Xの普及、デジタルの対応、また、脱炭素の取組等の説明をいただきましたけれども、これらの取組については入り口に入ったということで、これから事業が本格化していくということになっていくと思います。

そういう意味で、令和5年度については、総括でも申し上げましたけれども、9月10日に鹿島市民文化ホールが開館をして、一つの大型事業が終わったというふうに捉えております。

私が令和5年度の事業の中で一つ成果検証ということで取り上げさせていただければと思いますけれども、市長も演告の中でJ R長崎本線の問題について説明をいただきました。要望もそうですが、やはり私たち鹿島市民がいかにこのJ R長崎本線を活用していくかということで、これまでいろいろな取組をなされてきました。その中で、いかにJ R長崎本線を活用するかということで令和5年度取組をされましたけれども、その事業の紹介、そして、その予算の執行状況についてお伺いをしたいと思います。

**○議長（徳村博紀君）**

山口企画財政課長。

**○企画財政課長（山口徹也君）**

それでは私のほうから、5年度予算の中で、今現在行っております「かささぎ」でGo！と神特典ということで、特急かささぎの利用促進策として行っておりますキャンペーンについての成果検証ということでお答えをいたします。

7月15日から8月31日までの期間、子供たちの夏休み期間中に大体合わせまして、2人以上のグループで特急かささぎに乗車した市民の皆さんに運賃助成を行う「かささぎ」でGo！を実施しております。その後、変わって9月1日から11月30日まで神特典キャンペーンを開催しております。これは特急かささぎを利用して肥前鹿島駅で降車された方にバスやタクシー、「HAMA BAR」などで使える1,500円分の電子クーポンを配布するキャンペーンを行っております。

また、現在、12月9日から1月28日までの期間で、「かささぎ」でGo！第2弾を展開中があります。これも2人以上のグループで特急かささぎに乗車した市民の皆さんが対象という条件は前回と同じなんですけれども、今回は複数回の利用を認めておりますので、今回の期間中につきましては2回、3回と利用させていただきたいと思っております。

また、鹿島市で行っておりますこういった利用促進策につきましては、J R九州のほうにも折に触れて伝えるようにしております。長崎本線の利便性向上に向けた活動の一環としても、ぜひ皆さんに御利用いただきたいと思いますところですので。

次に、成果検証ということですが、「かささぎ」でGo！第1弾につきましては予算を2,500千円つけていただいております。それに対して執行したのが650千円ということで、執行率では26%、ちょっと少ない執行率となっております。それから、神特典につきましては予算600千円で予定をしております、執行したのが310千円ということで、執行率は51%となっております。

どちらも初めて予算化をして実施するキャンペーンだったということもありまして、どれくらいの方が利用されるか指標がなかったこともありまして、どちらのキャンペーンも予算に対する執行率としてはあまり伸びておりませんでした。利用された方の満足度は高く、また利用したいという声も多くありましたので、移動する機会が多くなる年末年始に「かささぎ」でGo！第2弾ということで展開をしているところです。

今回につきましては、第1弾で情報が行き届かなかった可能性があるのではないかとこのことを考えまして、前回の周知方法に加えまして、嘱託員の皆さんの協力をいただき全戸への回覧を行っております。また、各家庭のケーブルテレビの戸別受信機を使って、こういったキャンペーンをやっているということでのお知らせも行っております。これらの結果を踏まえまして、より効果的な事業となるように適正な予算措置を行って、新年度も引き続き取り組んでいきたいということで考えているところです。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

一例として、令和5年の事業ということで挙げさせていただきました。

先ほど答弁にありましたように、2つの事業ともそれぞれ執行率が低かったということがあります。使われた方は満足をされているのかもしれませんが、逆に、知らなかったという方が非常に私の周りでは多かったです。

もう一つは、やっぱり慣れていないというのものもあるかもしれませんが、申請が複雑であると、市役所に来ないといけないということもあって、この辺の申請の在り方も私は考えないといけないのかなと思います。

神特典にしても、鹿島市の観光協会、駅の観光案内所が開いていれば簡単にできたかもしれませんが、開いていない時間にこれを取付するのは高齢者の方はなかなか難しいんじゃないかなと思います。

そういう中で、結局、鹿島市にとって、鹿島市民にとっていいアイデアであり、いい施策をしているけれども、その情報発信がやっぱり行き届いていない。こういう質問をすると、よく返ってくるのが、市報には載せています、ホームページには載せています、また今回は、恐らく回覧等でも回されるのかなと思いますけれども、やはりその辺の工夫をもう少しやれ



ないのかなと。

いつも言いますけれども、鹿島市の情報発信力をもうちょっと高めていかないと、こういう施策が本当に市民の皆さん方に有効に使われるのかということになると思います。

今、SNS等もあって、鹿島市もホームページ、フェイスブック、インスタといろいろやられていますけれども、個々でやられているので、鹿島市内には観光協会であったりとか、今度新しくKATAラボさんとか、そういうところもできたので情報共有をされて、そういうところからもこういう施策については情報発信をしてもらおうと。多くの人たちに鹿島市の取組について分かっていただくような仕組みづくりを私はもう一度考えていただきたいと思えますけれども、担当課としてはどうでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

山口企画財政課長。

○企画財政課長（山口徹也君）

お答えします。

議員おっしゃいますように、情報が届いていなかったという声は私たちのほうでも聞いております。そういったところがありましたので、今回、嘱託員の皆さんにお願いをいたしまして、全戸への回覧とか戸別受信機での放送ということでは行わせていただいているところ です。

また、今SNS等での発信ということにつきましては、出だしについてはそういったことでお知らせをしているところではございますけれども、こういった形で一定期間、1月の後半までのキャンペーンということで期間も長く取っておりますので、そういった中で何度か、そういった形の周知の徹底、広報というところにつきましてはいろんな形があると思いますので、今提案がありましたこと等を含めてこちらのほうでも対応していきたい、取組をしていきたいということで思っております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

先ほどありましたけれども、それぞれのやり方というのはあるかもしれませんが、市単体でできることはやっぱり限られていますので、各関係機関に連携を求めながら市の施策を打ち出していくことがより効果的な部分を生み出すと思いますので、ぜひお願いをしたいと思います。

次に、新年度予算に向けてということで質問をさせていただきたいと思えます。

今から——もうあっているのかもしれませんが、各担当課からヒアリングをされて、これから新年度予算に向けての予算編成に、原案づくりになっていくと思えますが、新年度予算

に向けて、令和5年度の予算の中途でありますけれども、市長が考えられます今後の最優先課題を挙げるとすればどういうことがあられるのか、お伺いをしたいと思います。

○議長（徳村博紀君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

来年度の予算編成をどう考えているのか、最優先課題はどんなものがあるかということですね。

確かに今、来年度の予算については各課からいろんな話を受けて編成に入っている段階になっています。基本的には、鹿島市の第七次総合計画で目指します、みんなが住みやすく、暮らしやすいまちづくりを掲げて、その基本的な方向性でいくというのは従来取ってきた手法と同じです。ただ、今回、昨年からはじめましたDXの推進、デジタルトランスフォーメーションの推進であったり、あと、脱炭素社会の推進であったり、世の中の流れに沿った施策を打ち出していかなければいけないというふうに思っているところです。

先ほど松田議員のほうからも言われていましたように、今年度から入ってきておりますので、今入り口に入ったところです。これから具現化して成果を出していくということになりますので、新年度予算編成では第七次総合計画実現を進めるために重点施策推進枠という特別枠を創設して、このDX、脱炭素社会の推進などについて、国のデジタル田園都市国家構想交付金、それから、地域脱炭素移行・再エネ推進交付金、こういうのを積極的に活用して鹿島市の施策を進めていきたいというふうに思います。

あともう一つ、いろんな議員の皆さんから言われたように、子育て支援、あるいは産業の支援であったり、こういうこともやはり強力で押し進めていかなければいけないというふうに思っております。今物価高騰が進む中で、産業であったり、子育て支援であったり、こういうのが今後どうなっていくのかと皆さん方は非常に不安がっておられるというふうに思いますので、こちら辺はやはり市民の皆さん方のいろんな意向を聞きながら、優先的な課題としてやっていく必要があるんじゃないかなというふうに思っているところです。

そして、先ほど言われたJRのことも、鹿島市としては今後どうなっていくのかというのが非常に大きな課題ですので、いろんな施策を打ち出しながら、鹿島市にとってJRの利便性が低下しないような取組もしっかり進めていかなければいけないというふうに思っております。

そして、令和6年度はSAGA2024国スポ・全障スポがございます。これに向けた取組も来年度は加速をしていきますので、これの予算も伴います。

そしてもう一つが、来年は鹿島市制施行70周年の年に当たります。これに向けて70周年の記念イベント等も考えておりますので、これに伴う予算というものも来年度予算編成の中で取り組んでいきたいというふうに思っているところです。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

市長より様々な施策について説明をいただきました。鹿島市の第七次総合計画を基本に、改めてその推進に向けてということで、DXの推進、脱炭素の取組、これが本格化をしていくのかなと思います。来年度は佐賀県でSAGA2024国スポ・全障スポ大会がありますので、これについてもということでありました。

もう一つは、やっぱり一番感じておられるように、物価や燃料の高騰によって市民生活が非常に厳しい状況になると思いますので、そのときに対しての支援をそれぞれ考えていかなければならない厳しい一年になるのかなと思います。

その中で、財政的な面を中心に少し質問させていただきたいと思います。

先ほど市長のほうから答弁で挙げられました事項もありますが、同時に、これまでも議会で質問がありましたけれども、今後、庁舎の耐震、また、市内の公共施設の維持管理、こちらのほうはやはり計画的に進めていかなければならないと思います。

その中で、昨今、物価の高騰、人手不足、先日、県のほうで市村記念体育館の改修工事も不落になり、当面の間、凍結というお話がございました。

そういうのを見ると、こういう市内の公共施設の維持管理には非常に難しい財政的な面が出てくると思いますけれども、その辺、担当課としてはどのように考えておられますか。

○議長（徳村博紀君）

村田財政調整監。

○財政調整監（村田秀哲君）

お答えをいたします。

先ほど議員から御紹介がありました市村記念体育館をはじめ、資材の高騰などで、県内外においても人件費高騰等の理由で、施設の建設事業費の上振れが報道されているところであります。

このような先行き不透明な状況の中、今後とも賃金や物価がいつまで、どのくらいの規模で上がっていくかは私のほうでも想定ができないところではありますけれども、そのような中でも、本市の公共施設の今後の維持管理につきましても、これらの状況を踏まえて財政負担増の影響等は考慮していかなければならないと思います。

その中で、毎年ローリングして実施しております実施計画や中期財政の見通しなどにより、必要に応じて、事業規模の見直しとか仕様の変更、または総事業費の圧縮などを検討するほか、実施時期などの見極めを行って、適時適切に持続可能な財政運営を図っていかなければならないと考えております。

また、経常的な維持管理につきましては、来年度から随時、公共施設のLED化に取り組んでいくことにしております、電気料金等の経費節減を図っていくということで考えております。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

市内の公共施設等を拝見してみますと、各体育館の雨漏りとかいろいろな問題が出てきていますので、早急にやらなければならないことも出てきていると思います。その面も含めて、市内の公共施設の維持管理については、より計画的に進めていっていただきたいと思っています。

同時に、これは僕は以前から質問をしてきましたけれども、やはりこれだけ物価の高騰や燃料の高騰を含めて厳しい時代にはなっていますけれども、逆に市内経済も厳しくなっているのではないかなと思います。本来、市内の経済が活発であれば市の投資等は最低限でいいのかもしれませんが、やはり今厳しい状況になっているからこそ、公共事業という形で経済の下支えをしていただければと、そのように考えています。

以前から質問をしてきましたけれども、財源ベースということで質問させていただきたいと思いますが、投資的経費、いわゆる公共事業について、非常に財政的には厳しいですけれども、一般財源ベースで約4億円は確保していただきたい。そして、それぞれの国、県の補助事業、そして、起債等も含めて10億円以上の事業費になるように、何とか工夫をやらせて、市内経済の下支えをするような施策を打ち出していきたいと思っています。

多分、令和4年度の数字を見ると、約3億円ぐらいだったと思います。令和3年度は450,000千円ぐらいだったかなと思いますけれども、これまでは市民文化ホール、その前は新世紀センター、その前は「かたらい」の整備など、ある程度建築的なもので一定程度の公共事業がありましたけれども、本当に市内の民間の会社に行き渡るような形での事業というのを今後考えていかなければならないと思いますので、その辺、担当課として、ぜひこの財源ベースの4億円を含めて今後の施策を考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

村田財政調整監。

○財政調整監（村田秀哲君）

お答えいたします。

議員からおっしゃられたとおり、近年、新世紀センターから始まり、干潟交流館、道の駅「鹿島」、「かたらい」とか、最近の市民文化ホール建設事業など、平成26年から令和5年までの10年間の1年当たりの平均で投資事業額が約25億円となっております。それ以前の10

年間、平成16年から平成25年では投資事業費が1年間当たり平均1,260,000千円ということで、その時代よりも近年の10年間は約2倍の投資事業費を、大型投資を行ってきております。

そういうことでありますが、このまま引き続きこのような大型の投資事業を同じようなペースで続けていくことになると、公債費の増加につながり、その他の事業費を圧迫することになり、財政運営的には少し厳しい状態になるのではないかと推測しております。一旦は通常の投資事業のペースに戻していきたいと考えております。

しかしながら、この投資事業の中には箱物建設だけではなく、土木費では道路、橋梁など、農林水産業費では農道、林道、漁港施設など、教育費では学校や社会教育施設の維持補修など、それぞれ毎年必要な投資が必要となってきますので、起債残高や公債費の推移に注意しながら、毎年のローリングの中で財政運営を図っていかなければならないと考えております。

その中で、確約はできませんが、投資事業の事業費といたしましては、一般財源ベースで3億円から4億円、事業費ベースでは10億円の範囲で推移していくものと見込んでおります。以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

9番松田義太議員。

**○9番（松田義太君）**

ぜひ一般財源で4億円前後、トータルで10億円以上ぐらい、何とか市民に密接したというか、市に密接したような事業で取り組んでいただいて、市内経済を下支えということで市のほうで頑張っていただきたいと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

次に、人口減少対策について質問させていただきます。

まず1点目に、最初に答弁をいただきましたけれども、その答弁についてお尋ねをしたいと思います。

以前、国のほうが人口減少時代に入ったということで、社人研、国立社会保障・人口問題研究所の調査結果を発表されました。それについて、これまで社人研の推定人口と本市の人口減少の推移はどのようになっているのか、お伺いをしたいと思います。

**○議長（徳村博紀君）**

川原総務部長。

**○総務部長（川原逸生君）**

答弁させていただく前に、1点だけ訂正をお願いしたいと思います。

総括の中で人口の傾向について、平成12年から平成27年の5年後というふうに申し上げましたが、すみません、15年後でございます。

答弁といたしましては、社人研の推計と国勢調査の人口の対比で申し上げさせていただきますと、平成27年、2015年では、社人研、国立社会保障・人口問題研究所の推計人口は2万9,251人でした。それに対して、実績であります国勢調査の人口は2万9,684人ということで、

433人、実績値が上回っております。そして、令和2年の国勢調査人口は2万7,892人でありまして、社人研の推計人口が2万7,881人とほぼ同数、僅かプラス11というふうなことでもございました。これらから申し上げますと、ほぼ社人研の推計人口で本市の人口減少は進んでいるというふうなことになります。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

午前中はこれにて休憩します。

なお、午後の会議は午後1時から再開します。

午後0時 休憩

午後1時 再開

**○議長（徳村博紀君）**

午前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

9番松田義太議員。

**○9番（松田義太君）**

それでは、午後の質問を始めたいと思います。

昼休みに市民の方から電話がありまして、ちょっと専門用語が多過ぎるので分かりにくいということでしたので、少し分かりやすいように質問をしていきたいと思います。

最後に人口について質問をさせていただきました。その中で、国の調査機関の社人研のほうの数字を教えていただいたと思うんですけども、まず、ちょっと数字の確認です。令和5年11月ということで、今、鹿島市の人口は実績値で2万6,826人、もう2万7,000人を切っているということよろしいですか。

**○議長（徳村博紀君）**

川原総務部長。

**○総務部長（川原逸生君）**

午前中の答弁で、令和5年11月の推計人口が2万6,826人というふうに申し上げました。この推計人口とは、令和2年の国勢調査、これは10月1日現在ですが、2万7,892人という実績値に、出生、死亡、自然動態、社会動態のプラスマイナスを令和2年の実績値からずっと積み上げていったのが令和5年11月の2万6,826人です。したがって、推計人口というふうに申し上げております。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

9番松田義太議員。

**○9番（松田義太君）**

ちょっと私、資料を持ってきていないんですけども、国の調査機関である社人研のほう

で今後の推計があったと思いますが、その中で、2030年に鹿島市の人口はほぼ2万5,000人になるのではないかとということで発表があったと思いますが、その人口等について資料をお持ちならば、教えていただければと思います。

○議長（徳村博紀君）

川原総務部長。

○総務部長（川原逸生君）

お答えいたします。

社人研、再度申し上げさせていただきます。国立社会保障・人口問題研究所、人口問題等に関する調査研究を行いまして将来の人口等を推計している機関でございますが、この社人研が平成25年に推計したものが2万7,881人、これが午前中に申し上げました11人の誤差しかない。先ほど議員がおっしゃいました2030年、これが2万5,118人と推計をされているところでございます。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

これまでの推計と現実の数字の人口を見ても、あまり変わらないということで来ています。そうなった場合には、2030年、恐らく7年後には鹿島市は2万5,000人になるということを入りながら今後の施策というのは考えていかなければならない。

そういうがあるので、議会においても、今議会では定住人口の質問も杉原議員のほうからありましたし、また、人口減少対策についても伊東議員からあられたと思います。その面を少し自分の角度で質問させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

今回、定住人口を含めて企業誘致等の行政視察にお伺ひしました。先日質問がありました三原市、また、宮崎県の都城市に行ってきましたけれども、これらの事例を参考にして質問させていただきたいと思ひます。

まず、移住の相談窓口ということ、相談から入られて移住までの流れということ考えた場合に、私は3つの連携が大切になってくるのではないかと考えています。

まず最初に、やはり相談を受けて、そして、その相談内容によって庁内で対応ができる部分、これは、まず相談に来られるときの相談窓口でもありますし、また、住居であれば市の空き家バンク制度を使う、また、子育て環境であれば教育委員会、小・中学校の紹介、また、福祉課であれば、保育園、幼稚園、子育て支援センター、庁内ではありませんが、就労といえばハローワーク、市内企業、情報発信でいえば、東京都にありますふるさと回帰支援センター、また、佐賀県との連携、まず、庁内が中心となってできる連携がそれぞれあると思ひ

ます。

実際、今その連携が見えているかといえば、正直見えていません。これらの問題に関して、もう一度、本当にこの移住・定住の対策に取り組むのであるんだっただらば、やはりここ一年、集中的にそれらの対応を担当課としてしていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

山口企画財政課長。

○企画財政課長（山口徹也君）

お答えします。

現在の鹿島市役所内での移住の仕組みというか、そういうところになるかと思えます。

現在、移住の窓口に関しましては、企画財政課に一本化して対応をするようにしております。電話、メール、また、来庁された際など、まずは企画財政課の担当のほうで話を聞くようにしております。

そこから、例えば、住居の話になった場合、移住体験をしたいということであれば当然都市計画のほうにお話を持っていきますし、空き家バンクとかいうことであれば建設住宅課とか、定住促進住宅の話に関してもそういったところということで、住居の話が出たときには空き家バンク、定住促進住宅というところを最初にお話しさせてもらいまして、実際に話がそこから続くようであれば、担当のほうに相談をしているところに来てもらって一緒に話を聞いてもらい進めていくというふうな手順を今現在取っております。

子育て環境の部分に関しましては、当然教育総務課、また、福祉課、保険健康課というところがありますけれども、こちら辺になってきますと手続的なところがあることもありますので、それぞれの課を案内させてもらっております。

それと、就労という話になりますけれども、そういった際には、相談の中で起業の話とか創業の話が出た際には商工観光課を、また、就農の話ということであれば農林水産課のほうを案内するようにしております。ハローワークとか市内企業につきましては、企業説明会や雇用対策の情報交換会というところにつながってはおりますけれども、直接の紹介というところまではまだ至っていないところです。

それと、話にありましたふるさと回帰支援センター、また、佐賀県というところにつきましては、移住相談会の情報をもらったり、佐賀県とは県主催の移住相談会に参加をしております。そういったところで東京や福岡で移住相談会を開催しているところになります。

議員おっしゃるように、昨年からの移住の窓口を企画財政課に一本化して対応ということで現在やっているところですがけれども、まだ少し、つながり、連携というところがぎこちない部分があるというのは私どものほうでも思っているところですので、そういったところに関してはしっかり連携をして進めていくようなところは今後詰めていかないとけないということで思っているところです。



○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

窓口が一本になったということでありますけれども、多分、一般の人からすると企画財政課といってもぴんとこないような気がしますよね。その中に移住・定住係でもいいですし、そういうのがあれば少しいいのかなと。ホームページとかそういうのもですけども、企画財政課にあるというよりも、きちっと市として移住・定住を担当する課があるということをもまず発信することは私は大事だし、相談する方々も移住・定住の相談をしたいので、やっぱりそういうのの最初の取っかかりのところを少し考えていただければなというふうに思います。

次に、これは庁内とか各関係機関との連携でしたけれども、もう一つは地域との連携ですね、やっぱり移住をされてきて、いろいろな御不安があられると思います。先日、移住体験ができる庄金地区で体験された移住体験利用者の方々を、地域の方々が自分たちで歓迎会、ミニコンサートであったり、おもてなしをされたと聞いています。そういう意味で、地域のことは地域の方に聞くことが一番大事だと思います。

今、こういう連携を自発的にしようという空気がありますので、それを市のほうがフォローする、一緒になってその中に入って移住体験利用者の方の声を聞くということも大事だと思いますので、その辺も検討していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（徳村博紀君）

山口企画財政課長。

○企画財政課長（山口徹也君）

お答えします。

浜の移住体験施設を利用される方と地区の方のお話というのは、こちらのほうでも少し聞いているところでございます。

今、実際移住体験をされている方たちと地元との連携といいますか、つながりというところになりますけれども、現在、浜のまちづくりに取り組まれております水とまちなみの会に、施設の運営管理と併せて、近隣への挨拶の同行とか、また、浜宿への案内というところの委託を現在しております、地域の方との良好なコミュニケーションが取れるよう、サポートをお願いしているところです。

また、地区の歓迎会等については、そういった形でうまくはまって楽しんでいただけるようであれば望ましいというところもありますけれども、人によっては静かに浜の町並みを味わいたいという方もいるということでしたので、そこについては特段義務ということではなく、それぞれ合わせた形で各地区で行っていただいているところでございます。

地域との連携、そういったところを行政のほうでも見ていくというのは確かに必要なとこ

ろかと思えます。移住された方たちのいろんな話を聞く場であったり、そういったものというのには必要だと思えますので、今後そういった形で移住をされる方との関係、市が入ってそういう話を聞く機会という部分については設けていく必要があるということで思っております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

ケース・バイ・ケースではあると思えますけれども、そういう地域で歓迎会をしていただけるということは非常に大事なことなので、その辺はうまく対応をしていただければと思います。

もう一点、先ほどの答弁の中でもありましたけれども、これまで移住をされた方との意見交換会というか、今どこの市町村でも一緒ですが、移住を検討されている方は今までに移住された方の意見を聞きたいというニーズが多岐にわたりますので、やっぱりそこで不安の解消とかが出てくるのかなと思えます。ですから、サロンみたいな感じでもいいですし、行政、また民間でもいいですが、これまで移住された方とのネットワークをもう一度ここでつくっていただきたいと、そのように思います。

もう一点あります。今、鹿島市のほうでも地域おこし協力隊の採用を検討されていると思いますが、移住・定住施策にもこの協力隊の方々の活用を考えておられるのか、お伺いしたいと思います。

○議長（徳村博紀君）

山口企画財政課長。

○企画財政課長（山口徹也君）

お答えします。

まず、移住をされた方との意見交換会、サロンなどということでありましたけれども、現在、市のほうに特に相談等はなく、例えば、移住をされた方が御自分でいらっしゃるということでの情報が入った際には、なるべく機会をつくって、鹿島市に決められたきっかけや目的などというのは聞きに行くようにしております。

ただ、議員おっしゃるような、移住をされた方たち同士でいろいろ話ができるような、意見交換ができるようなサロンのようなものというのは今現在設けておりませんので、そこについては、先ほどお話がありましたように、地域おこし協力隊ということで採用する予定をしております。その方たちを含めて、移住をされた人たちとの意見交換の場ということで、そういったものを設けて、移住をしてきた方たちがいろいろな意見交換ができたりするような場については設けたいということで考えております。

また、2名の協力隊の方につきましては、鹿島市への移住者の中・長期的に増やすことが目的ということで今回採用を計画しております。鹿島にいる人たちが、地元の仕事や地元の人々の魅力を知らないということで鹿島を離れていく人、戻ってこない人が多いという現状を変えたいということで、鹿島の代表的な仕事、農業であるとか、漁業であるとか、そういったものについて体験をしてもらって、その魅力などをユーチューブやSNS等で発信してもらいまして、当然鹿島の高校生たちにもそれについては知っておいていただきたいということで、話をする機会も設けたいと思っております。

また、ユーチューブ、SNSということであれば、市外、日本全国に発信という形でできますので、そういったところで情報を届けたいと思っております。

また、3年間の任期を終えられた後は、経験を生かして鹿島での起業、また就職によって、市内定住につなげてもらえればということで現在考えているところです。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

9番松田義太議員。

**○9番（松田義太君）**

地域おこし協力隊の皆さん方もということでありましたので、外部の力も入れながら移住・定住に取り組んでいただきたいと思えます。

先日、唐津市のほうの取組について少し勉強してきましたけれども、相談窓口をNPO法人さんに委託されて、非常に皆さんが行きやすいような、また、相談をしやすいような相談窓口になっていました。この辺が今後、地域おこし協力隊の方々になってくるのかなという感じもします。

お話を聞いたら、行政の方とお話をするちょっと硬いというか、仕切りがあるものですか、そういう形でやればと。まず、移住をされてきた方々のサロン等もしながら、移住の相談に来た方はそこへ来ていただいてみんなの話を聞くということで、不安解消にもなっていくのかなというふうに思いますので、今後、取組の強化をよろしく願いたいと思います。

この移住問題について今回取り上げましたのは、ちょうど12月3日の佐賀新聞にありました、「県の移住支援金、反響大きく」ということで、令和5年度の予算をつけておられましたけれども、もう9月に到達をして、恐らく12月補正でまたつけられるかもしれませんが、昨年からすると非常にニーズが高まってきていると。この新聞の中ではありますけれども、佐賀市のほうも予算の上限を超える見通しになったので11月補正で組みたいということで、やはり今この移住に向けて各市町がそれぞれの取組を強化されておりますので、ぜひ鹿島市においても遅れることなく、そしてまた、多くの資源が鹿島市にはありますから、そういうことをPRしながら、1人でも2人でも鹿島に来ていただくように担当課として努力をして

いただきたいと思います。

その中で、もう一点あります。最初にも申し上げましたが、都城市とか三原市とか、非常に移住を積極的に取り組んでおられるところは、やはり入る窓口、いわゆるホームページだったりとか、SNSの発信であったりとか、それを物すごく上手に見せるやり方をやられているので、皆さん多分、スマートフォンで、ここの自治体がどのようなことを入れるのかというのは手軽にできる時代になっていますから、その辺はもう少し鹿島市は、私も見ましたけど、工夫をされたほうがいいのかなと。せっかく時代の流れでSNSということで、人ではなくて、一つの媒体としてやれることはたくさんありますから、そういうのを活用しながら今後の人口増の取組に私はつなげていただきたいと思いますが、担当部としていかが考えますでしょうか。

**○議長（徳村博紀君）**

川原総務部長。

**○総務部長（川原逸生君）**

お答えいたします。

議員言われるように、本市にはすごくいい資源、市外、県外の方と先日もお話をする機会があったんですが、自然豊かで、子育てするには本当に最高ですねというふうな言葉もありました。

一方で、先ほど情報発信という部分がありました。ホームページ、SNS、いかに見せるか、その見せ方次第によっては、魅力の魅ですね、魅せられることにつながるのではないかとこのように考えております。

そういう中で、答弁をしましたように、本市の現状分析と将来見通しを踏まえて様々な策を講じて、出生率の減少等による自然減、または人口移動による社会減、これをいかに緩やかにしていくかということが求められておりますし、人口減少対策については喫緊の課題ということで危機感を持っております。そのためにも、人口減少対策に特化した、まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げる取組、そして、さらなる施策の充実に努めていくことが必要というふうに考えております。

また、もう一つ大事なこと、それは議員御指摘のとおり、施策や事業、資源の魅力等の発信力を高めることであります。

情報は3つのステップがあると私は考えております。まず、発信、共有、活用であるというふうに思います。発信をしないと共有、皆さんに知っていただくことはできない。知っていただいたら、いろんな人が集まって、いろんなまちづくりにつなげていくかというみんなで進めるまちづくり、これが施策の基本的な考え方といたしております。

これらの様々な情報媒体がありますので、市報等の紙、インスタなどSNSのデジタル等、それぞれの特徴を生かし、発信し、若い人から御高齢の方まで情報が広く行き渡ることで、

多くの方の力を借りながら、鹿島力、または地域力が高まればというふうに考えております。

ここで一つ時間をいただいと申しますか、デジタルによる情報発信という点で紹介をさせていただきたいと思います。

市の公式LINEがございますが、来年、令和6年1月1日にリニューアルをいたします。それは主に3点です。欲しい情報を御自分で選ぶことができ、また、受け取ることができます。また、ごみの分別方法などの問合せをすると、AIが自動で答えてくれます。また、子育てや防災などの暮らしの情報にすぐアクセスできるようになります。本市の様々な情報を受け取ったり聞いたりすることもできますので、ぜひ御登録いただけたらというふうに思います。

今後も積極的かつ継続的、効果的な情報発信によりまして、交流関係人口の創出、ひいては定住人口増につなげ、人口減少に少しでも歯止めをかけるために様々な展開してまいります。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

9番松田義太議員。

**○9番（松田義太君）**

先ほど答弁がありましたように、新たに市の公式LINEを来年からリニューアルすると。鹿島市内の皆さん方が中心になると思います。

その中で、最初の来年度の予算編成に向けてということで、大事な部分で市長がDXを取り組んでいきたいというお話をされました。

こういう答弁がありましたので、質問ではなくお願いですけれども、デジタルを使って公式LINEを新しくするというのであれば、やっぱりこういう方々が利用できる体制をつくらないといけないと思います。特に高齢者の方々がこういう情報を受け取ることができる体制、そうなれば、各自治体で今されていますスマホ教室だったりとか、LINE教室だったりとか、LINE教室の中でこういう市の施策について説明をしてもらおうとか、そういうのをしていけば、今回、新しくリニューアルする部分が広がっていくと。そういうことをやはり、一つの事業をこうしましたじゃなくて、それをつなげることも非常に大切だと思いますので、そういうところを今後、来年の施策に盛り込んでやっていくことが必要ではないかなと私は思います。

これを最後にしますが、最後にノリの面について質問させていただきます。

最初の答弁でありました、各地域ごとの、その中で一番私が気になったのは七浦地区の売上高、これが約60,000千円ということでありました。七浦地区の漁業関係者の方が、恐らくノリ漁師さんの約半分以上を占めている。約半分以上を占めているところが売上高も非常に少ない。本来、生産枚数はほかのところの倍以上取れなければならないのが、そこまで至っていないということが今、鹿島にとって一番大事なことかなと思います。

昨年もそうでしたけれども、浜、鹿島は厳しい中でも何とか頑張っていたというお話を聞いていますが、七浦は地域性もあり、非常に厳しかったというお話であります。

今回、数字的にも枚数も全体的に見れば非常に厳しかった。また、単価が高かったのも何か生産高は上がってきていますが、今後の見通しを考えたときに、本当にこれで大丈夫なのか。市長の演告でもありましたが、3期続けて、特にここ2期は非常に厳しいときがありましたので、この辺の支援策を――これまで市のほうでも施肥の支援と、また、去年はコロナの臨時交付金を利用していただいて燃油の高騰等についても支援をしていただいておりますけれども、実際今の現状を考えた上で、その支援の準備を始めておく必要があるのではないかと。それは今回の補正では組まれていませんけれども、この後でもすぐに対応できるような補正の準備は私はやっていただきたいと思いますが、その辺、市長どうでしょうか。

**○議長（徳村博紀君）**

松尾市長。

**○市長（松尾勝利君）**

議員言われるように、今、ノリ養殖の現状ということで、ここ2年ばかり不作が続いていて、漁業者の方も今年にける期待は大きかったんですけど、量的に上がらなかったということで、生産金額が上がっておりません。やはり今後、支援の準備をしておくべきだということですので、それは当然考えます。

ただ、一番いいのは、いいノリが取れるような状況をつくり出すというのが大事だということに思います。取れないのでこういう支援をするというよりも、やはり取れるような対策をやっていくというのが大事だと思いますので、今回、11月22日に有明海の漁協のほうが今後の支援策、有明海の対応について、再生を目指していくというような判断をされました。ここが一つの大きなキーワードになるのかなというふうに思っております。

確かに、有明海の再生というのは非常に難しいわけですが、対策を施さないとますますこういうふうになります。だから、早急な対応が必要ということを県のほうも考えていらっしゃると思いますので、まず、その対応策をいち早くできるような体制をつくってもらいたいというふうに思います。

ただ、市のほうでできることというのは、議員おっしゃるように、対策として、例えば、栄養塩が足りなかったときに施肥をやったり、冷凍の保管のための経費がたくさんかかるので、その補助を幾らかでもやりましょうとか、あと、今年も行いましたけど、海の状況のための海底耕うんであったり、そういう様々な方策を今やっております。

1つ、今年新しくできたのが、漁場をお互い譲り合うといいですか、それぞれの漁業権があって、なかなか自分の漁業権のほかに網を張ることができなかったのを、今年試験的にやりました。たまたま今年やったのでいいかなと思ったら、その地区が栄養塩がなくて、いいノリが取れなかったということですので、やっぱり対策というのは、結果的にはこうなった

んですけど、いろいろ最善の方法というのを考えながらやっていかなければならないと思いますので、あくまで漁業者の声、漁業者がどういう支援策を望んでおられるのか、海の改善をするためにどういう方法がいいのかということ聞きながら、ぜひ対応していきたいというふうに思っておりますし、今年度のノリ、雨がとにかく必要なんですよね。少し多めの雨が降ること期待をいたしております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

やっぱりどうしても自然が相手ですので、その辺はいろいろな対策を打ちながら漁業者の方も大変頑張っておられると思います。

その上で、本当におっしゃるように、今年は非常に期待がされていましたがけれども、本当に厳しい状況を皆さん方、肌で感じておられて、本当にどがんなとやろかという声を多くいただいています。

市長が最後におっしゃったように、雨が50ミリでも降ってくれば全然違うとばってんが、なかなかその雨が降ってくれんということで、今後、秋、また次の冷凍というところの皆さん方の不安というのはお聞きをしながらいますけれども、やっぱり高まっているというところであると思います。

そういう中でどのような支援ができるのか、その支援の準備はどうしていくのかというのを質問させていただきました。

ちょっと昨年の答弁もありましたので、その事業とかが生かせるのか、お伺いをしたいと思います。

昨年、私も質問させていただきましたけれども、燃料価格が高騰した場合、国から一部補填される漁業経営セーフティーネット構築事業というのが答弁でありましたけれども、これらは今年度も生きているのか、お伺いしたいと思います。

○議長（徳村博紀君）

江島農林水産課長。

○農林水産課長（江島裕臣君）

漁業経営セーフティーネット事業、これは燃油価格が一定の水準を超えた場合に発動する国の制度でありまして、鹿島市の漁業者の皆さん、全ての方がこれに加入されております。

今季の状況でありますけれども、既に発動しておりまして、補填がなされているという状況です。今後についてもこれは継続して事業は展開されるというものでございます。

○議長（徳村博紀君）

9番松田義太議員。

○9番（松田義太君）

まずは国とか県の補助、支援策というのが今後も出てくると思いますので、その辺の周知に対しては漁協も含めてしっかりとやっていただきたいと思います。

ノリ養殖業については、やはり鹿島の重要な産業の一つでありますので、一番危惧するのは、以前からも申し上げていましたけれども、20年前は約百五、六十件あったのが、恐らく今年度は90件を切るような形になってきていると思います。

しかし、若い人たちも後継者として非常に頑張っておられますので、そういう人たちが今後も続けていかれるように、やはり国、県、市が共同して支援をしっかりとやっていくということが大事だと思いますので、そこは市長が一番よくお分かりだと思いますので、ぜひ力強くバックアップをしていただきたいと思います。

今日は、令和6年度の予算編成に向けてということと、人口減少対策、最後に有明海再生の取組について質問をさせていただきました。

今から、物価、いろいろな意味で非常に市民生活が厳しいことが予想されますので、市の担当課の方々に関しては、やはり市民生活に寄り添い、どういう施策が本当に市民にとって大事なのかということに重点を置きながら、令和6年度の予算編成と3月までの予算執行に取り組んでいただきたいと思います。

これで9番議員の質問を終わります。

○議長（徳村博紀君）

以上で9番議員の質問を終わります。

ここで10分程度休憩します。午後1時50分から再開します。

午後1時38分 休憩

午後1時50分 再開

○議長（徳村博紀君）

休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続けます。

次に、5番池田廣志議員。

ここで申し上げます。池田廣志議員の一般質問で議場モニター映像の使用を許可します。

○5番（池田廣志君）

こんにちは。5番議員の池田廣志でございます。今回、私、この議会の一般質問に関しては一番最後がいいなと思いながら、トリを務めたいということで申込みいたしました。そういうことで、いろんな意味で、今まで私も質問する中で、市のほうにどうしてもこれを約束していただきたいということがあったもんですから、今回の議会では10人が質問をすることになりましたけど、10番目という形で質問をいたしたいと思います。

今まで皆さん方が質問されるのをずっとと議員席で聞く中で、先ほども議員の方がおっしゃっていましたが、鹿島市においても人口減少というのは非常に厳しい問題だと思って



おります。私もいろんなデータを調べてみる中で、これは1955年、このときの国勢調査では、鹿島市の人口は3万9,392人というデータがございます。この人口が60年後の2015年には2万9,684人、この60年間で約1万人減少をいたしています。これを割合にいたしますと25%人口が減っているということになります。この1955年から、今度は次に105年後の2060年にはどうなるかと調べてみたんですが、推計値は1万6,746人、これを率に直しますと57%の減少でございます、こういうふうな人口推計がなされております。本当にこのままでは鹿島市全体の活気がなくなってしまうことを非常に危惧いたしております。

この人口減少問題は当然鹿島市だけの問題ではございません。全国の地方自治体が抱える大きな課題でありますけど、これを対策もせずこのままにしておくと、今申し上げたような状況が目前に出てくるということでございます。今までの議会での議論を聞く中でも、やっぱり鹿島市としても持続可能なまちづくり、それと、皆が住みやすく、暮らしやすいまちづくりに力を入れてまいりますとの答弁もいただいております。

そこで、私なりにこの人口減少を少しでも緩和したいという思いで、この件に関するいろんな施策とか対策を6項目に絞って質問いたしますので、よろしく願いいたします。

一番最後には、今までこれだけ議会と執行部のほうでいろんな意見の取り交わしをする中で、このやり取りした内容を誰かがちゃんと整理していかないと、ただ単に議論しただけで終わってはもったいないですから、この辺りを一番最後、7項目めに質問いたしたいと思っております。

まず最初にお尋ねするのは、これは前回の9月議会でもお尋ねいたしました秋田県にかほ市との交流についてお尋ねをいたします。

この案件につきましては、私の思いとしては、若者が県外に出ていかないように、一人でも多くの方の転出を防ぐということで考えておりますので、まず1番目の秋田県にかほ市との姉妹提携についてお尋ねをいたします。

これは9月議会ではある程度内容的にも御説明をいたしましたけど、この秋田県のかほ市と鹿島市の交流につきましては、姉妹提携を結んで交流が続く中で、将来、にかほ市にもある世界的な大企業を鹿島市に誘致するという話をしているわけでございますが、これは前回は申しましたように、現在、秋田県にお住まいの友人の方から提案されている案件でございます。

そこで、そのときの市のほうの答弁といたしましては、他の市町村との姉妹都市提携には時間がかかりますという答弁をされました。このことで、前回の一般質問が終わった後で何名の方からも電話をいただいたんですが、それはそれぞれ違うやろうもんとおっしゃるんです。これは案件がそういう意味では時間がかかってどうのこうのというよりも、早ければ早いほど私はいいと思っていますので、この後に、そういうふうな若者が県外に転出することを止めるための施策ともなり得ると思っていますので、この辺りについては、まず市長から

の答弁をいただきたいと思います。

次に、2番目といたしまして、鹿島市のよさを生かしたまちづくり、これに向けてお尋ねをいたします。

この案件につきましても、その前の6月議会でお尋ねをいたしています。これはどういうことかといいますと、鹿島市内で多くの企業が頑張ってお業をされているのに、これらの企業の情報が市民の方に本当に十分に伝わっているのかといえば、ほとんどの方が各企業が取り組んでおられる事業内容を知らないままになっているのではないかと、これも危惧をいたしております。ということで6月の議会でお尋ねいたしました、これについては大切な取組ですから、各課内で検討いたしますと答えはいただいたんですけど、その後の動きが全く見えないし、感じられません。

特に、このたび新聞報道でもありましたけど、船舶用部品を製造する市内のある企業が、海運業界での温室効果ガス削減の動きを受けて、液化天然ガスを燃料にする船舶が増産されることを見込んで事業規模を拡大されますので、その際にはまた新たな雇用が生じると思われます。このような身近な情報を多くの市民に伝え、新たな雇用の確保につなげていくためにも大切な取組と思いますので、今後の取組をどう具体的にしようと考えておられるのか、お伺いをいたします。

それと、次に3番目でございますが、住み続けてもらう対策の一環でございます。これも令和4年12月議会でもお尋ねいたしました案件でございます。お尋ねしてから1年以上経過したわけでございますが、現時点でも市街地の幹線水路に水が流れていません。1年前の答弁では、町中の水路の水管理は、昔からの慣行に沿って地元の役員や生産組合長が管理をされているが、近年はコロナの影響で水管理のための会議が開催できない状況だ。そこで、早い時期に会議を開催し、その中で水路の適正管理について協議いたしますという答弁をいただきました。しかし、昨日も確認したんですが、1年たっても幹線水路には水は流れていません。来年の夏もこの汚れた水がよどんで、夏には蚊が発生することが考えられます。そこで、その対策を今後どうするのか、これについてもお答えいただきたいと思います。

次に4番目として、鹿島に住んでよかったと思ってもらうための対策でございます。これは私も非常に気になりますのは、公共施設の適正管理、これが本当にできているかということでお尋ねをいたしますが、まず、生涯学習センターエイブルの壁面が醜いほどに汚れており、特に中川に面する壁面がひどい状況でございます。肥前鹿島駅のほうから国道207号を進みますと、ちょうど中川橋の手前のところで正面にその醜い壁面が視界に入ります。これを調べるためにほかの公共施設も見てみたんですけど、こういう汚れ方をする施設はほかにはございません。だから、何でああいうふうになったのか、その原因を把握しているのかどうか、お尋ねをいたします。

それと、5番目といたしまして、鹿島に光と力を与える対策として考えていただきたいと

思っておりますのは、鹿島市の観光スポットである道の駅「鹿島」、これをさらに活性化させるための取組についてお尋ねをいたします。

現在、ここには駐車場が整備をされています。その新しい駐車場が完成したときには、進入してくる車のほぼ正面に干潟展望館が見えることになると思います。しかし、この建物も建築からかなりの時間がたってきましたので、今後これを本当に活用するとなればどういうことを考えておられるのか。確かに1階部分は公衆便所として利用されておりますけど、2階はほとんど使わない状況が続いていますので、この建物の今後の活用をどう考えておられるのか、お尋ねをいたします。

それと6番目に、市民の方が安心して住み続けるための対策としてお尋ねをいたします。

ここ近年の雨の降り方は本当に激しいものがございまして、そのときの降雨量も、そして、その降る場所もなかなか想定できないような厳しい状況が続いています。被災を受けた状況を見ても、武雄市では河川の広域氾濫、それと、去年、唐津市では民家近くでの土石流も発生をいたしました。そして、家屋3戸ほどが流され、人命も奪われたところがございます。

このように災害の状況が年々厳しくなる中、ちょうど先日、市内の防災関係の方とお話をする中で非常に気になることをおっしゃいました。鹿島市の防災担当職員は、県あたりが開催する防災研修会への参加が少ないという話をされましたので、いろんな内容を聞くためにも関係の方と話したんですが、次の会議はどうも2名ほどその研修会に参加されるとは聞きました。

ただ、こういうふうな研修会とか、防災に関するいろんな市民との交流事業も開催をされておりますので、その辺りも積極的に参加をしていただいて、災害から鹿島を守るとの強い思いで取り組んでいただくべきと思いますが、これは今後どうお考えなのか、お尋ねをいたします。

以上、6件のことについてお尋ねをしながら、あとは一問一答の形で具体的にお尋ねをしてまいります。そういうことで、6項目についての答弁をよろしく願いいたします。

#### ○議長（徳村博紀君）

執行部の答弁を求めます。松尾市長。

#### ○市長（松尾勝利君）

私のほうからは、池田議員のにかほ市との関係について、これからどういうふうな対応をするのかという話だと思います。

企業誘致という話もされましたので、企業誘致、これを行う際には、誘致活動をしていること、それから、その相手企業についての情報、締結を結ぶまでは極力外に出さず、静かに進めていくというのが通例となっております。お話しされている件は、これから先を見据えた友好交流の勧めということでお答えしたいと思います。

にかほ市との実質的な交流といたしましては、現在、池田議員が今年2度訪問されておら

れます。鹿島市から嫁がれた方のお子さんが大きな会社を起こされたということを私も池田議員から直接伺いました。こういうあまり知られていなかった縁で交流をスタートしていただいたというふうに思っております。

9月にお答えしましたように、今まで行き来がなかったところ、何もしないに友好都市提携を急ぐ、それで、しかも工業誘致を目的にというのは難しいといえますか、考えにくい状況だというふうに思います。ですので、議員が始められたこの交流などが今後も続いていくことが市と市の関係を築いて友好都市の提携へとつながっていくものというふうに考えます。

私たちもにかほ市と連絡を取っております。話したところによりますと、いきなりの交流、それから、友好都市提携は難しいという、こちらと同様の考えであることを確認いたしております。また、お互い機会を見つけて、実際に会って挨拶をしたいという思いも持っておりますので、会う機会があれば、そのときにはお会いしてお互いの親睦を深めていきたいというふうに思っているところです。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

山口商工観光課長。

**○商工観光課長（山口 洋君）**

それでは、商工観光課のほうからは、2点目の市内企業のPR、市民へ知ってもらう取組はという項目と、5点目、道の駅の活性化ということに対してお答えをいたしたいと思えます。

まず、市内企業のPRの件ですが、市内にすばらしい企業があることを市民の皆様知ってもらうことについては、担当課としても非常に重要なことだと認識をいたしております。

その取組の1つを紹介いたしますと、例年2月に高校生及びその保護者を対象といたしました企業説明会を実施いたしております。この企業説明会についてお時間をいただいて少し御紹介いたしますと、今年度は来年2月、令和6年2月6日火曜日に生涯学習センターエイブルのホールで開催をいたします。対象者につきましては、昨年度までは高校2年生とその保護者ということでしたが、より多くの高校生に聞いてもらいたいということで、今回、対象を広げて高校1年生を追加いたしております。

市役所での市内企業の紹介、展示についてどのような進捗状況なのかという御質問ですが、先ほど申し上げました企業説明会の時期と合わせまして、市役所1階の市民ホールにございますモニターを活用し、企業説明会に参加される企業さんのPRを行うよう計画いたしております。今回、説明会と時期を合わせることでPR効果を高めていきたいと考えており、今後も随時時期や方法などを精査しながら、効果的な情報発信、PRに努めていきたいと考えております。

次に、5項目め、道の駅の活性化の御質問にお答えをいたします。

道の駅「鹿島」の活用につきましては、自然豊かな有明海の魅力を発信していくといった観光面などで多くの期待が寄せられております。平成31年4月には干潟交流館なな海のオープン、また、議員がおっしゃいますように、今年度末には、現在整備を進めております駐車場整備、また、進入路など国道改良事業についても工事が完了見込みとなっております。新たな道の駅としてリニューアルする予定となっております。この工事によりまして、既に国道からの見通しも格段とよくなるなど、道の駅利用者の利便性も向上しているところです。

道の駅を活性化する取組につきましては、今年10月、関係者間において今後の活性化に向けた意見交換会、また協議を始めたところでありまして、今後、干潟展望館、干潟交流館をはじめとする道の駅全体がより一層活性化するために、地元と共に協議を行ってまいります。

それと、展望館の整備につきましては、この協議によって、今後の利活用に合わせて整理をしていきたいと考えております。

商工観光課からは以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

江島農林水産課長。

**○農林水産課長（江島裕臣君）**

私のほうからは、大きな3点目の市街地の水路の水量が少ない、よどんでいるという件について申し上げます。

中川水系にあります9つの頭首工の維持管理を目的とした組合として中川激特区间頭首工維持管理組合というのがございます。この組合は、16の区が定期的な塗装や突発的な故障による修繕をあらかじめ想定し、頭首工の数や世帯数を基に一定数を積み立てて維持管理を行っておられます。

議員からありましたように、これまでコロナ等もありましてなかなか総会等の会議が開催されてきておりませんでしたけれども、今年につきましては、6月22日に総会のほうが開催されたところでございます。ここに私どもも出向きまして、この中で各地区の区長様及び生産組合長様に対しまして、頭首工から取水した水、これは農業用水だけではなく、市街地を流れる水路の維持用水にもなっておりますので、農繁期以外にも適切な取水と維持管理をお願いするというような依頼をしてきたところでございます。

この水路の水管理につきましては、実際に必要とされております地元生産組合等への管理となりますけれども、今後も地元と協議をいたしまして、よりよい水管理ができるよう努めてまいりたいと考えております。

**○議長（徳村博紀君）**

鳴江生涯学習課長。

**○生涯学習課長（鳴江克彰君）**

生涯学習課からは、4番、公共施設の適正管理をということで、生涯学習センターエイブ

ルの壁面の汚れの原因について申し上げます。

エイブルにつきましては、建設後20年を経過しておりますが、建物の内部の清掃につきましては、指定管理者等により適切な維持管理を行っているところです。しかし、外壁については指定管理の維持管理業務に入っておらず、特別な対策はせず至今已っております。外壁の汚れについてはタイルの部分だけとなっております、ここ10年間で特に目立ってきており、早急な対応が必要であると認識をしているところです。

お尋ねの汚れの原因につきましては、外壁の老朽化により、タイルの目地にほこりや汚れ、黄砂などが蓄積しており、水カビ、水あか、カビ、コケ、藻などが発生し、それが少しずつ湿気とともに広がっていると考えられます。

以上でございます。

**○議長（徳村博紀君）**

白仁田総務課長。

**○総務課長（白仁田和哉君）**

総務課からは、6番目の防災担当職員は県等が開催する防災研修に積極的に参加し、災害から鹿島を守る力強い取組をとという質問に対しお答えいたします。

我々職員も自分自身の防災知識の向上が鹿島市の防災や減災の向上につながっていることは十分自覚し、日々勉強をしております。

お尋ねの県が主催する防災に関する研修や会議についてですが、大きく分けて2種類が開催されております。まず1つ目は、議員が聞かれたと思います共助である自主防災組織の強化を目的とした研修が開催されております。もう一つは、市町の職員や消防署の職員等、いわゆる公助に関わる関係機関を対象とした県、気象台等が主催の研修や会議が開催されており、今年には既に14回開催されております。市の水防・防災合同会議で出席できなかった1回を除き全てに出席し、関係機関との大雨対応時の連携や法、制度の変更点の確認など、防災知識の向上を図っているところであります。

なお、全てには参加できておりませんが、6月下旬から9月末にかけての大雨や台風に備える時期以外で開催される各種の防災研修にもできるだけ参加をしているところでございます。

以上でございます。

**○議長（徳村博紀君）**

5番池田廣志議員。

**○5番（池田廣志君）**

それぞれの答弁をいただきましてありがとうございます。

それでは、私のほうで1項目めから、なるだけ市民の方にもお分かりいただけるように、ある程度具体的な話をしながら質問を続けてまいります。

まず、1番目に申しました秋田県にかほ市との姉妹提携でございますけど、確かに先ほど市長が申しただいたように、まず、お盆前に1回秋田市を訪問いたしまして、その後、10月にも、これは21日から23日まで秋田市のほうに訪問をいたしました。それで、そのときにいろんな方とお会いする中で、本当に秋田県との交流というのは面白いなと思っています。これはちょうど着いた日の21日には、秋田県にはとんでもない広い潟といいますか、青森県に近いところには干拓地がございます。それで、ここの干拓地には3名の方が佐賀県から入植したよということでお越しいただきました。それで、いろんなお話をしたんですけど、やっぱり向こうのほうでは考えられないような田んぼの面積を耕作されています。大体平均しても1世帯で20町歩の田んぼを管理しながら、地元のいろんなおいしいお米を作っておられる話もされまして、実際、その施設も見せていただくということで現地にも行ったりしました。

そういうことで、私なりにこれは勉強になったんですけど、ちょうどそのときに、まず行った目的は、戊辰戦争絡みの葉隠墓苑に祭られている方の慰霊でございましたので、その式典に参加後、翌日、今度はにかほ市のほうに訪問をしたときにも、非常に市長も忙しいという話はあったんですけど、ちょうど私どもが訪問してしばらくしたら、市長と教育長が出てこられまして、具体的な話にいろいろなりました。このときの話については、にかほ市としても、佐賀県鹿島市というのは非常に自分たちから見ても考えられないような有明海という海があるんですよねという話になって、やっぱり自分たちが今一緒に生活している子供たちにも、こういうふうな海があるということも体験させるのは非常にいいですねということで、市長も教育長もその話をおっしゃいまして、そういうふうな子供たちの交流を含めて、向こうもいろんな考えをしてくれていますので、ぜひどこかの時点で、市長も会議のたびにお会いしたいということでもらっているのは私も聞いているんですけど、まだまだ直接お会いできていないようですけど、まずは電話でも何でもいいと思います。私も直接今2回市長と会う中で、今、松尾市長がいろんな思いをしながら取り組んでくれていることをお伝えしていますので、その辺り電話でもしてもらえばいいのかなと。

私が一番怖いのは、このまま時間をかけていたら、間に入っていろいろしてくれている秋田県の友人が、これは駄目だと思って、この話が頓挫するのが一番怖い。だから、将来的には企業誘致がなるかならんかは分かりませんが、なるだけそういうふうなつながりをつけていくことで、この世界的な企業を誘致することも可能と思っていますので、その辺りよかったですら、もう一度市長のほうにお答えをいただけたらと思います。

○議長（徳村博紀君）

松尾市長。

○市長（松尾勝利君）

秋田県にかほ市とのつながりということで、池田議員が本当に精力的に活動しておられる

というのは重々承知をいたしております。やはりそれぞれの市同士の交流というのは、市長同士じゃなくて、職員とか、いろんな関係でつながりを持っていかなければなりませんので、池田議員からおっしゃられたことを職員につなげて、まず職員同士の話をしっかりしてくださいということで今話をしておりまして、その先に、今、池田議員がおっしゃったようなお互いの友好の関係が築いていけるというふうに思っております。

議員がそれだけ一生懸命されるというのは私も本当に感謝をいたしておりますし、そういうふうないい友好関係が築ければいいなというふうにも思っておりますので、まず、これについては職員同士の話し合いを十分して行って、その先に話をしたいというふうに思います。よろしいでしょうか。

**○議長（徳村博紀君）**

5番池田廣志議員。

**○5番（池田廣志君）**

ありがとうございました。こういうふうなせっかくの縁ができて、私も県庁の中で仕事をする頃は企業誘致をすることが非常に多かったもんだから、この辺りの企業誘致というのは非常になかなか厳しいところがあって、こういう縁なんていうのはめったにございません。だから、県内の代表するような企業でも、やっぱり隣の県から誘われたりなんかしながらいろんな誘惑があっていました。私も鹿島市内の企業を回っていたんですけど、そのときも玄関先には県外の企業の車が止まっていて、社長とお会いするとき、何でこういうふうな県外の車があるんですかといえば、やっぱりお誘いを受けていますというのがかなりございましたので、この辺りもせっかくの縁というのはなかなかつくろうと思ってもつくれませんので、その辺りを生かしながら、これをぜひ私なりに生かしていこうということで頑張っただけでまいります。この後も頑張っただけでまいりたいと思います。そういうことで、市長にはどうぞよろしくお願いをしたいと思います。

それから、2番目にお尋ねいたしました企業情報を市民の方に知らせていただくようなコーナーをつくって、これはいつでも市民の方が見られるような状況にさせていただくと、やっぱり市民の方が、もし自分の息子等が大学あたりを卒業するときに、鹿島にもこんないい企業があるじゃないかと言ってもらうことで、次のいろんなことにつながっていくかと思っています。

ただ、私も今度大学を卒業する子供たちとも機会があれば話すんですけど、彼らが何と云うかといえば、大学に行くにもやっぱり親に負担をなだけかけないということで奨学金をもらって行きましたと。それと、卒業することによって、当然奨学金は返さなきゃいけません。それで、今度は田舎に就職すると車を買わんばいかなんでしょうと言うんですよ。そいぎ、何でなのと言ったら、やっぱり車がないと生活できないというのが実態だと思います。だから、車まで買いよったら、この車代の償還で給料はほとんどなくなってしまうですよとまで言う



んです。だから、その辺りは今後の課題として、これは全国の地方自治体がこれだけ人口減少で困っている中で、その辺りも今後私も勉強しながら、次の質問につなげていきたいと思っています。

それでは、次、3番目にお尋ねいたしましたことでお尋ねをいたします。

この町中の水路の水管理がなかなかできていないという話の中で、6月にはそういうふうな会議も開催したとおっしゃっている割には本当に全く流れていない。特に私気になるのは、ちょうどこの横にある中川頭首工から堰を立てて水を取り込んでいるんですけど、取り込んだら、すぐまたほとんどが中川に戻っているんですよ。これは井堰のところに立つてもらいと分かりますけど、取り込んだ水がまたほとんどが中川に戻っています。だから、これはあんまり取り過ぎたときに排水するための排水口だろうと思うんですけど、その板が腐れたのか。ほとんど水がまた元に戻るもんだから、実際先のほうには宮園電工とか、ずっと会社等がございます。それと、鮮魚店あたりもあるんですけど、そこには一切水が現在流れていません。だから、具体的にその辺りも担当課長として現場を確認していただいて、地元の区長さんや生産組合長あたりと協議をしてもらえばと思います。そうしないと、今のままでは全く改善されていないなと思って、改めて危機感を持っていますので、よかったらもう一回答弁をお願いしたいと思います。

**○議長（徳村博紀君）**

江島農林水産課長。

**○農林水産課長（江島裕臣君）**

私どもも現地に出向いて調査はいたしておるわけではあります。先ほど申しましたように、今年6月にも区長さん、生産組合長さんのほうに、農繁期以外の水管理もということでお願いをしたところではありますが、それでも流れていないというようなことでありましたら、また改めて現地のほうを確認して、地元のほうと協議をしたいというふうに考えております。

**○議長（徳村博紀君）**

5番池田廣志議員。

**○5番（池田廣志君）**

ありがとうございます。ぜひ水門辺りから流れ込んでいる状況も現地で見させていただいて、これも直接会議を開催されたなら、そういうふうな地元の生産組合長あたりと話せると思いますので、その辺りぜひ確認をお願いしたいと思います。

[映像モニターにより質問]

それで、今日この質問をするに当たってお示ししている地図は、消防団第2部の消防水利を示した地図に、私もたまたま中川の水利の管理をしていましたので、これを第2部のほうだけ取って、この地図に色を濃く塗っている部分が実際流れている川の状況です。これについては、参考にしていただくためにも私のほうからこの資料は担当課のほうにお見せをした

いと思っています。

これは可動堰から引かれた水がどう流れているかというのを整理した地図でございまして、この黒い丸のぽつぽつとあるのは、実際消防団のほうで管理されている消火栓の位置でございます。それとか、川から水をくみ取る場所辺りを表示されていますので、その地図に、実際、可動堰から取った水がどう流れているかというのを私なりに整理いたしました資料でございます。これは後で資料をお見せしたいと思います。そういうことで、このまちに住み続けてもらう対策としては非常に大切なことと思っておりますので、ぜひよろしく願いをしたいと思っています。

それと、次、4番目に公共施設の適正管理についてお尋ねをいたしました。それで、エイブルの壁面があまりにも汚いもんだから、これも写真に撮っております。

これが中川のほうから撮った写真でございまして、この壁面の汚れというのは本当に何なのという感じなんです。さっきも言いましたように、ほかの公共施設にこういうのがあるかなと思って見てみたんですけど、こういうのはなくて、これは何でこうなったのか、担当課としてぜひ原因まで追及をしていただきたいと思います。何でこんなことになるのかというのは、私からすれば、どうも排水するためのちょうど一番上のところに排水施設があると思うんですけど、この辺りが落ち葉とかごみとか風で飛んでまいります。その辺りでどうも流れが悪くなっているんじゃないかなと心配をいたしています。ただ、ここにはなかなか上がれんです。私も指定管理者として5年間預かったんですけど、ここまで上がることはできません。

ただ、今回、きれいにするための工事等も行おうと思いますので、そのときにそこまで調べていただいて、そして、できたら1年後にでもこの壁の面を少しでもきれいにするということをお約束いただくために答弁をお願いしたいと思いますが、お願いします。

○議長（徳村博紀君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えいたします。

今現在、排水口の詰まりが原因ではないかという御指摘がございましたけれども、その確認は今のところできておりませんが、実際に現場を見てみないと原因は追及できないと思いますので、まず足場を組んで、その現場を見ながら対策を講じていきたいと考えております。もし排水口の詰まりが原因であるならば、当然その対応をしなければいけないと考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

**○5番（池田廣志君）**

今答弁をいただいたんですけど、確かに高いところで、なかなかそこに上がるというのは大変なんですけど、設計図があると思いますので、よかったら、設計図で確認をしていただければある程度のこと分かるかなと思っていますので、その辺りぜひよろしくお願いをしたいと思います。

この醜いエイブルの壁の横には、今回、真新しいSAKURASも完成をしておりますので、特にこの汚れが目立つと思います。

〔映像モニターにより質問〕

次の写真として今お示ししているのは、これがSAKURASのほうから見た壁面ですね。この壁面の汚れというのは全体的にしていますので、この辺りぜひ公共施設を管理する立場としてよろしくお願ひしたいと思います。

それと次に、私も気になったのは、この新築されたSAKURAS、これについてお尋ねをいたします。

今写真でお示したのは、これはSAKURASの北側、エイブルとの間にある障害者のための駐車スペースです。この駐車スペースを造ってはおられるんですけど、これがなぜか坂のところなんです。それで、この建物自体が確かに川のそばに造られておりますので、ある程度建物部分が高くて、周りが自然に下がった設計になってはおるんですけど、ここに造られた障害者用の駐車スペースが坂のところにあるので、もし車を止めて、これから車椅子等を下ろしたときには、気づかなければ本当に道路に向かって転んでいきます。だから、何でこういう造り方をされたのか、分かっていたらお答えをいただきたいと思っています。

**○議長（徳村博紀君）**

嶋江生涯学習課長。

**○生涯学習課長（嶋江克彰君）**

お答えいたします。

身障者用駐車場を現在の場所に設置している理由ですけれども、雨天時の利用を考慮いたしまして、できるだけ建物に近いほうが利用しやすいとの考えであの場所を選んでおります。

ただ、SAKURASの建築部分ですけれども、水害の発生に備えて基礎の部分を高めております。ですので、道路との高低差がかなりある状態になっております。そのため、身障者用駐車場を御利用の方には御不便をかけてしまっているという結果になっております。仮に身障者用駐車場のスペースを平たんにするとなれば、道路からの傾斜がさらに急になりますので、車の底をこすってしまうような事態も考えられますので、現状が傾斜をできる限り少なくしたぎりぎりの設計ということになっております。

それから、先ほどのエイブルの壁面の汚れの件についてですけれども、実施計画におきましては、再来年、令和7年度に実施するというところで計画をしておりましたけれども、やは

り新しいSAKURASができた隣にエイブルと並んでおりますので、少し見た目が悪いということで、1年前倒しで、来年の令和6年度に実施をしたいと考えております。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

SAKURASに造られているこの駐車スペースで、特に障害者用の場所がこういうところに何で造られたのかなと思って、改めて私も現地を見ながら思っているのは、多分プロの設計をする方が設計したはずなんです。だから、こういうふうな斜面のところに駐車スペースを造るなんて考えられませんので、私も現地をずっと見ながらしているんですけど、これの反対側の市役所のほうだったら全然勾配がないですよ。だから、その辺りで何でそうならなかったのかなと改めて思っていますので、これについては考えられる安全対策をぜひお願いしたいと思います。

だから、この場所をどうしても変えることができないなら、目の前に注意看板を書くとか、ここは障害者用の車椅子を下ろすときに、こういうことには注意をしてくださいというふうな、運転をされてこられた方に分かるような表示をすることで少しでも事故を未然に防げるかなと思っていますので、その辺りを含めて、よかったですらお願いをしたいと思います。

それと、生涯学習センターエイブルの壁面の汚れも、来年度、6年度にはそういうふうな対応をしたいということでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。これはお願ひという形で、何か答弁していただけますか。お願ひします。

○議長（徳村博紀君）

嶋江生涯学習課長。

○生涯学習課長（嶋江克彰君）

お答えいたします。

SAKURASの身障者用駐車場につきましては、傾斜があるために、今、議員おっしゃられたように、車椅子を利用する方にとっては使いづらい面があると認識しております。これを改善するために、新しい身障者用駐車場をSAKURASの出入口の、今、議員言われました南側の部分、そこに移設の方向で検討をしております。そこは傾斜がない場所になりますので、身障者の方が安全に利用できるかと考えております。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

ありがとうございます。これは利用者の方の安心・安全ということで考えていけば、ぜひ

お願いしたいと思っていましたので、よろしくお願いをしたいと思います。

それと次に、鹿島市の観光スポットでもある道の駅「鹿島」、これをさらに活性化させるために質問をいたしたいと思います。

私が先ほど質問の中で申しました、今回新しく新設されている駐車場、この正面に近いところに干潟展望館というのがございますので、この辺りの活用策について提案しながらお尋ねをしたいと思います。

干潟展望館の2階に上がりますと、窓いっぱいには有明海が目の前に広がります。そして、心が和むのを感じるような景観でございます。ちょうど私も13日、この議会の一般質問の1日目が終わったときに、再度干潟展望館に行ってまいりました。それで、ちょうど夕方5時頃だったんですけど、その日は物すごく天気がよくて、干潟展望館の2階に上がりますと、目の前に広がる有明海、これがちょうど夕日の関係でピンクに染まっていますね。それともう一つは、南側の窓から見ると、多良岳山系が本当に一望のもとに見えます。だから、こういうふうなきれいな景観を生かして、私は次のことをぜひ検討いただきたいと思いながら質問をいたします。

今回、質問をする中で、これは提案という形になるかと思いますが、鹿島市内のある企業が深井戸を掘って、今見つけておられる地下水、これは多良岳山系の水なんですけど、この水の硬度が170度あります。170度というのは、普通は鹿島市の上水道で、これも井戸からくんでいるんですけど、大体軟水になりますので40度の硬度の水なんですけど、この硬水は全国でも私珍しいんじゃないかなと思っています。全国の状況を見ても、日本列島というのはほとんどが軟水です。それで、鹿島で見つかっているこの硬度の高い水を使って、ヨーロッパ並みのコーヒーを鹿島で出すよという形での取組ができないものなのかなと。これは民間がやることでございますので、何も鹿島市にやれということじゃございません。ただ、窓から広大なすばらしい景色が見える、有明海とか多良岳山系が見える眺めの中でコーヒーを飲むのは本当にすごいなと思いつつながら、できたら干潟展望館、先ほど申しましたように、造ってからかなり時間がたっておりますので、その辺りの改修ができるものなのかどうか、よかったら担当のほうで答えいただきたいと思います。

○議長（徳村博紀君）

山口商工観光課長。

○商工観光課長（山口 洋君）

それでは、展望館の今後の活用ということでお答えをいたしたいと思います。

干潟展望館につきましては、現在は情報発信コーナーといたしまして、パンフレットの配置、また、千菜市、隣の物産館のほうで購入されたお弁当などを食べていただける休憩スペースとして活用いたしております。議員おっしゃられるように、展望部分も有明海が近く見えて、ゆっくり休憩できるスペースとなっております。

先ほどコーヒー、飲食はどうかということでお話でしたが、実際誰がやるのか、そこが一番大事なところだろうと思っております。そういったやりたいという話があれば、市のほうといたしましても相談等に乗っていきたいと思っております。

議員おっしゃられるように、有明海の魅力をさらに広めていくという話でございますけれども、先ほど申し上げたように、地元との協議の中で、あらゆる可能性を検討しながら、引き続き協議をしていきたいと思っております。それで、どういった活用ができるのかと併せて、改修のほうも整理をしていきたいということで考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

5 番池田廣志議員。

○5 番（池田廣志君）

ありがとうございます。私もこの問題の質問をするに当たって、それじゃ鹿島の硬度の高い水の活用ということでどういうことが考えられるかということは、実際、佐賀市のほうでこういうことに取り組んでおられる若い方がいらっしゃいますので、170度ある硬水をその方に提供して、そして、その方に本当にこの水の生かし方はどうねと言ったら、やっぱりコーヒーというのは産地によって全然味が違うもんですから、実際、この170度の硬水に合うコーヒーを入れてくれました。それで、何人か知人の方と一緒に飲んでみたんですけど、確かに香りもあって、苦味もあって、本当にこれがコーヒーだなと思うようなことを提供してくれましたので、その辺りを含めながら今後検討していけたらということと、もう一つ、事業をやるに当たってもう少し何かないかなと思って、今、鹿島でも小さい2 S級のミカンというのは捨てられていますので、この辺りのミカンを生かせることがないものなのかどうか、これは地元のお菓子屋さんに相談しながら進めています。だから、そういうことで、みんなやっていったら、本当に道の駅はもっとお客さんが集まってすごいことになるんじゃないかなと思って考えています。

次にまた写真をお示しします。

〔映像モニターにより質問〕

これが道の駅「鹿島」の上のほうから撮った写真です。それで、この写真の右側に見えるのが干潟展望館、それと、真ん中の青い屋根が今カキ焼きを提供しているスペースです。それと、その左側が千菜市になっています。

それで、この写真をお示しするのに、ほかにも太良の道の駅も参考に撮ってまいりました。これは今の道の駅「鹿島」を拡大して見せた分です。

次は、これが太良の道の駅でございます。それで、両方の道の駅を比べたときに1つ気になったのは、この入り口から入ったところの太良の道の駅については大型専用駐車場も整備をされています。だから、大型のトラックもかなり入ってここを利用しているようでござい

ます。それで、今、鹿島市のほうでも駐車場整備をされていますので、今工事をされているところは多分大型車が入るスペースかなと思って見てはおります。

だから、こういうことで両方の道の駅を回ってはきたんですけど、ただ一つ、鹿島の道の駅で気になったのは、2番目にお示しした道の駅をある程度拡大した写真……

○議長（徳村博紀君）

暫時休憩します。

午後 2 時 51 分 休憩

午後 2 時 51 分 再開

○議長（徳村博紀君）

再開します。

5 番池田廣志議員。

○5 番（池田廣志君）

〔映像モニターにより質問〕

ここで質問を続けますけど、これが道の駅をある程度拡大した写真で、これは駐車場等も整備されながら、今の状況では普通車が止める駐車スペースが大体100台分程度できるのかなと思って見てまいりました。

ただ、気になるのが、この千菜市のほうの屋根、これが多分海のそばだから、潮風等でかなり傷んでいるんじゃないかと思うんですけど、この屋根がかなり赤茶けて見えるものだから、道路から見たときかなりみすぼらしく見えてしまいます。

それと、その隣の干潟展望館も建物を造ってからかなり時間がたったものですから、駐車場はきれいになるけど、建物自体がかなりこれは古いなと思って改めて見えていますので。

この千菜市については誰が管理しているのといえ、実際は七浦地区のほうで会社を組織されて管理はされています。ただ、この建物の屋根は、さっきも言いましたように、潮風等の影響で赤茶けてかなりさびているような状況が見えますので、これは市のほうで何か対策が考えられんかなと思っております。その辺りよかったらお答えをいただけたらと思います。

○議長（徳村博紀君）

山口商工観光課長。

○商工観光課長（山口 洋君）

それでは、お答えをいたします。

議員おっしゃいます千菜市の建物につきましては、地元の団体の所有でございます。この建物については、平成22年3月にリニューアルオープンをいたしております。

屋根のほうがか赤茶けてさびているように見えるということなんですけど、この色につきましては、オープン当初からこういった赤色の建物となっております、当然海の近くでございますので、塩害対策ということでいろんなことは施されております。一部色とか汚れとかあ

る分については、今後どういった取組ができるのかということで地元のほうとも話をしたいと思っております。

以上です。

**○議長（徳村博紀君）**

5番池田廣志議員。

**○5番（池田廣志君）**

それでは、この千葉市というのは非常に鹿島にとっても大切な施設でございますので、その辺り地元と協議をしていただいて、これだけ今道の駅自体の環境整備が進んでおりますので、ぜひよろしくお願いをしたいと思えます。

それと、次にお尋ねをしたいのは、近年の雨の降り方で非常に心配される防災対策でございます。その中で、これは今までのいろんな議員の質問の中でも、鹿島市内の自主防災の組織率は92%程度と高いものと聞いております。これは住民の方の防災意識に対する関心が非常に高いから、こういう数字になっているのかなと思っております。

それと、一つぜひお願いをしたいと思っておりますのは、かしま防災サポーターズクラブというのが組織をされていますけど、これの研修が11月25日にございました。これはどこに行ったかといいますと、熊本地震での復興状況を現地視察するために貸切りバスで出かけております。それで、私もこれに同行したわけでございますけど、40名以上の市民の方が参加をされています。それで、かしま防災サポーターズクラブの会員だけかなと思ったら、それ以外の一般の方も参加をされています。それで、女性の方もかなり参加をされておまして、できるなら、このような事業に対して鹿島市からもぜひ職員が参加をされて、ここに参加されている市民の方というのは非常に防災に関心がある方でございますので、いろんな話を聞くなどするためにも参加していただいて、前向きで積極的な取組を期待しておりますが、この件はいかがでしょうか。

できたらこういうふうな防災研修会あたりにも市民の方と一緒にいろんな研修を受けて、それで情報交換ができるような体制をしてもらえればと思っておりますので、よかったです市のほうが参加できるかどうか、お答えいただきたいと思えます。

**○議長（徳村博紀君）**

白仁田総務課長。

**○総務課長（白仁田和哉君）**

お答えします。

防災サポーターズクラブ以外のほかの市内での自主防災組織、それから、老人クラブ等のいろいろな団体で実際防災研修が開催をされております。防災研修の講師の依頼、それとか、訓練等のときの補助スタッフとして依頼などがあっております。今年も11回程度あっているわけですけれども、それとあと、先ほど御紹介がありましたサポーターズクラブのほうから



のお誘いで、我々も先日、みやき町で開催された研修にも職員が2名参加し、とても勉強になったと聞いております。

今後も職員の防災知識の向上を図るため、いろいろな団体の研修等へできるだけ参加していきたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（徳村博紀君）

5番池田廣志議員。

○5番（池田廣志君）

ありがとうございました。この防災ということは市民の方の関心も非常に高い問題で、非常に身近な問題でございますので、市民と一緒にいろんな意味で取り組むということで、ぜひよろしくお願いをしたいと思っております。

それと、一番最後になりましたけど、7項目めに考えておりましたのが、これは令和4年12月議会の一般質問でも申し上げました。それで、前の副市長に質問をしたわけですが、どうい質問をしたかといいますと、一般質問あたりでしたことを、議員と執行部の議論の活性化をさらに進めるために、それと、この議論の内容の総まとめをどうされているのかとお尋ねしたんですけど、そのときの執行部の方の答弁では、議員からの提案等については総務課で整理をし、すぐにできるもの、長期的に取り組むべきものを区分して対応しておりますという答弁でございました。

ただ、この後の状況を私なりに思っているんですけど、これらに関する議論も今までないし、そういう取組をされているというのが1年たっても感じられません。それとか、質問の中ではいろんなホームページの活用等もしてまいりました。これはどういう内容をしたかといいますと、企業を誘致する際でも、鹿島市にはこれだけいい地下水がかなり出ているんですけど、この辺りの情報がなかなかホームページ等に掲載をされませんので、そのときにはそういう質問もいたしました。それで、特に鳥栖市には今回アサヒビールも進出するという話は、これは水の問題がいいということと、久留米市にも大手の企業がこの水を求めて実際企業進出をされています。

だから、そういうことで、ぜひこのホームページを有効活用しながらの情報発信と、それと、今まで議会の中でいろんな議論を積み重ねてきたことを、できたら副市長にその辺りの整理をしてもらって、せっかくの議論をする中で、全てができるとは思いません。できないのはできませんと、予算がないからできませんとか、そういうようなことをしながら整理していかなと、言いつ放し、聞きつ放しになっているような状況では、本当にこれだけ私ども議員も勉強しながら思いを伝えているわけでございますので、今後、議員が提案してきたいろんな質問内容を整理して、これを解決するために、ぜひ副市長に先頭に立って議員を指導していただき、周辺市町の状況あたりも調査をしていただいて、関係課を含めた取組がぜひ

必要と思っておりますので、その辺りをできたら副市長に思いをお聞きしたいと思っております。

○議長（徳村博紀君）

鳥飼副市長。

○副市長（鳥飼広敬君）

池田議員の質問にお答えします。

鹿島市を前に進めるために、私が先頭に立って職員を指導し、周辺市町の状況を調査し、関係課を含めた取組が必要だといった御質問だと思います。

今議会におきましても、議員の皆様からは、A I オンデマンド、オンデマンドバスなど、行政施策を受けての政策提言でありますとか、あと、人口減少問題であるとか移住・定住など、鹿島市が抱える課題について様々な御質問、御提案をいただいております。

これらの提案等の整理及び取組につきましては、考え方につきましては、いただいた提案等の処理、近隣市町の状況調査、関係課も含めた取組の3点からお答えしていきたいと考えております。

まず、いただいた提案等についてですが、議会の質問等でも、質問を聞いていて、皆さん現場であるとか、市民の声を聞いての御質問だと思いますので、なるほどと、その実施に向けて早急に検討する必要があるなというものや、御意見としては承りますけど、財政面であるとか関係者との利害調整などがありまして、実現するのがなかなか難しいという案件、様々なものがあると認識しております。

すぐに取組が可能なものにつきましては、長期計画を立てて取り組むべきものについて庁内で共有し、一つ一つ現状確認や対応の可否等を含め、検討確認をし、整理しているところでございます。

これらの提案等のうち、総合計画に定めております施策や事業、ニーズや実現性、優先順位、緊急度等、これらと照らし合わせ検証し、実施可能と判断したものについては、毎年度見直しを行っている実施計画に掲げ、庁内で決定し、当初予算を調整した上で、議会の議決をいただいて事業化しているところでございます。

年度中に緊急的に取り組むべき事業がある場合は、例えば、コロナ対応であるとか物価高騰対策、こういったものがあると思っておりますけど、そういったものについては適宜対応をしているところでございます。

なお、今、池田議員から御質問がありましたけど、提案したものの整理についてどうなっているかということでした。令和4年度中に御提案があったものについて、今回、令和5年度で対応しているものにつきましては、全部で41件、総務課で取りまとめているものがありますけど、実施済みであるとか実施中というもの、例えば、中央児童公園の問題であるとか、そういったものについては実施中、10件あります。あとは、質問もあっていますE V車の導入であるとか、そういった来年度に向けて検討しているというものについては6件ございま

す。あと、それ以外の検討中が21件、実施がなかなか難しいというのは4件となっております。

今回、池田議員の御質問でもいろいろとありました。すぐに対応できるものについては、今回の御質問の答弁でもありますが、対応しているところです。例えば、市内企業の紹介ですね、私も池田議員からもそういった声をいただいております、そういうのは県庁の1階のロビーにありますように、ああいったものが必要だということで、いろいろと担当課と話していて、最初は物を置いたほうがいいのかと思っていたんですけど、なかなかシリンダーライナーとか油圧プレスを置いてもどういふものか分からないんじゃないか、実際そういうのがどういふふうに動いているか映像で見たほうがいいんじゃないかということで、そういったPRコーナーにしております。

また、エイブルの壁の問題ですね。これも本当は令和7年度で実施するということでしたが、さすがにやっぱり、来た瞬間、あれは汚れが目立ちますので、できるだけ早くしようということで来年度に前倒ししたところです。

また、SAKURASの障害者の駐車場についても、議員の御指摘を踏まえて、担当課のほうで安全・安心という観点からすぐに見直しを行っているところです。

次に、近隣市町の状況調査についてになります。近隣市町だけではなくて、県内外の事例など、アンテナ高く、視野広く情報収集、参考日数、先ほど申し上げたポイントを踏まえ、検討、見極めを行っているところです。この点については私も特に意識しております、日頃から職員に対しても指示をしております。

今回、議員の皆さんのほうからA I オンデマンドバスの話がありましたので、担当課のほうには現物に乗ってくるようにすぐに指示をして、実際、担当課、課長2人が見に行っております。

最後に、関係課を含めた取組になりますけど、各課にまたがる案件の場合、それぞれの部長であるとか課長が調整を行うなど、随時横展開を連携し、最適な決定を図っているところです。この横軸の展開が大変重要だと思っていますので、その機能というのは鹿島市でも今後強くしていく必要があるかと考えております。

いずれにせよ、議員の皆様から御提案をいただいた内容については、執行部としても、議会では時には丁々発止の議論を行うとともに、庁内でもしっかりと議論していきたいと考えております。議員からは、鹿島を前に進めるためというお話もありました。鹿島をよくしたいという思いは我々執行部も同じでございます。そのため、執行部と議員の共通意識を深めていくことは大変重要だと考えております。

一方、議会と執行部は行政を動かしていく上で車の両輪と言われております。二元代表として執行部のチェック機能を果たすのも議会の役割かと考えております。執行部と議会が常に全て同じ方向とは限りませんが、緊張感を持って、関係を持ちつつ、車の両輪として一

緒に鹿島のまちづくりを進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（徳村博紀君）

5 番池田廣志議員。

○5 番（池田廣志君）

今、鳥飼副市長のほうから力強い御答弁をいただきましたので、私たち議員も今まで以上にいろんな鹿島市内のことを勉強しながら、議会の中に取り上げてまいろうと思っています。

今回、トリを務めたのも、その辺りをぜひ最後に言いたかったものですから、今回、一番最後に質問する順番を取ったんですけど、本当に鹿島市も人口減少がどんどん進んでいく中で、このままでは非常に厳しいと思っておりますので、議員一同、一生懸命私たちにいろんな問題も提起しながら、一步一步でも元気のある鹿島づくりのために頑張ってもらいますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

今日はありがとうございました。これで終わります。

○議長（徳村博紀君）

以上で5 番議員の質問を終わります。

本日の日程はこれにて終了いたします。

16日から19日までの4 日間は休会とし、次の会議は20日午前10時から開き、付託議案の委員会報告、議案審議を行います。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

午後3時10分 散会